

| 授 業 科 目 の 概 要 | | | | |
|---------------------|-----------|-------------------------|---|---------|
| (看護学研究科看護学専攻博士前期課程) | | | | |
| 科目区分 | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 | |
| 共通基盤科目 | 研究学術モジュール | 看護学研究Ⅰ (研究方法) | 看護学の主要な研究方法を理解し、看護学研究者としての研究基礎的能力を大学院生相互のディスカッションを通して修得し、質の高い研究や看護実践を推進する能力を修得する。 (オムニバス方式/全8回) (6 諏訪さゆり/1回) 看護学研究の意義 (21 池崎澄江/1回) EBNと研究の問い (19 田中裕二/0.5回) (46 坂井文乃/0.5回) 文献検索 (44 湯本晶代/1回) 事例研究 (40 中水流彩/1回) インタビュー法 (37 仲井あや/1回) 観察法 (10 北池正/1回) 質問紙法 (42 雨宮歩/1回) 実験法 | オムニバス方式 |
| | | 看護学研究Ⅱ (研究疑問と研究デザイン) | リサーチ・クエスチョンの解明に適切な分析手法を理解し、実際の研究論文の精読を通じて分析結果から導かれる科学的な知見までの論理的な流れを把握できる能力を身に付ける。これらを通じて、質の高い研究や看護実践を推進する能力を修得する。 (オムニバス方式/全8回) (1 正木 治恵/1回) 質的研究の分析手法の1つである、KJ法について解説する。 (3 増島 麻里子/0.5回) (35 楠 潤子/0.5回) 質的研究の分析手法の1つである、内容分析と現象学的アプローチについて解説する。 (20 辻村 真由子/0.5回) (24 佐藤 奈保/0.5回) 質的研究の分析手法の1つである、内容分析について、カテゴリ生成を中心に解説する。 (21 池崎澄江/2回) 量的研究の分析手法として、多変量解析3種類（重回帰・ロジスティック・因子分析）について解説する。 (36 佐野 元洋/1回) 質的研究の分析手法の1つである、グラウンデッド・セオリー・アプローチについて解説する。 (42 雨宮 歩/1回) 量的研究の分析手法の基本として、記述統計と二変量解析について解説する。 (43 鈴木悟子/1回) 質的研究の分析手法として、理論的枠組みを伴う質的記述的分析について解説する。 | オムニバス方式 |
| | | 看護学研究Ⅲ (研究倫理) | 看護が人々の健康を維持、促進する実践であり、看護学が実践の科学であることを踏まえ、ナース・サイエンティストとして責任ある研究活動を実施し、研究成果を発表する上で、適切な倫理的配慮を自律的に展開する能力を養う。 (オムニバス方式全8回、反転授業、学生による発表・討議と講評) (9 森 恵美/2回) 責任ある研究活動、看護学研究計画の立案における倫理的配慮、研究遂行時の倫理的配慮、研究成果発表における倫理等について解説し、量的研究や実験研究における倫理的配慮の具体例の提示や質疑応答、助言を行う。 (7 石丸 美奈/1回) 市民を対象とした研究実施時の倫理的配慮の具体例に基づく、研究倫理遂行上の留意点について解説し、講評する。 (29 小川 俊子/0.5回) Vulnerable populationsを対象とした研究計画立案事例に基づいて、倫理的配慮事項：①インフォームド・コンセント ②個人情報の保護、③データの収集・管理・処理、④研究不正行為 ⑤好ましくない研究行為の回避、⑥守秘義務等について具体的に解説し、講評する。 (27 井出 成美/0.5回) 研究成果の発表と倫理：①オーサーシップ、②不適切な発表方法（二重投稿・二重出版、サラミ論文等）、③著作権等について解説し、講評する。 (9 森、7 石丸、29 小川、27 井出、31 飯野、41 遠山、45 木村、44 湯本/4回) 学生が研究倫理的に問題のある研究論文について発表する会に執り行い、質問をしたり、講評・総括を行う。 | オムニバス方式 |

| | | | | |
|--------|-----------|---------------------------------|---|------------------|
| 共通基盤科目 | 研究学術モジュール | 看護学研究Ⅳ (アクションリサーチ&プロジェクト型研究) | 人々の健康を維持、促進する看護学の立場から、研究協力者と協働して、看護実践の現場の課題解決にとりくむ看護学研究に焦点をあてる。研究の意義、基盤となる理論や背景、方法論の特徴への理解を、講義および大学院生同士のディスカッションを通して深め、研究計画立案の基礎となる能力を修得する。 (オムニバス方式全8回) (25 黒田 久美子/5回) 『アクションリサーチ』(研究者が外部者)、『プロジェクト型研究』(研究者が内部者)の基本的な考え方や方法論の概説 『プロジェクト型研究』の研究例の解説 『プロジェクト型研究』の適用や実践可能性のグループ討議 (13 宮崎 美砂子/1回) 『アクションリサーチ』の研究例の解説 (6 諏訪 さゆり/2回) 『アクションリサーチ』の適用や実践可能性のグループ討議 (28 杉田 由加里/2回) 『アクションリサーチ』の適用や実践可能性のグループ討議 (31 飯野 理恵/2回) 『プロジェクト型研究』の適用や実践可能性のグループ討議 | 講義4回 グループ討議4回 |
| | | アカデミック・コミュニケーションⅠ(リーディング&リスニング) | The aim of this elective course is to explore the aspects academic communication that are specific to nursing science. Students will explore the process of inquiry in nursing research over eight sessions. Specifically, inquiry refers to the exploration and critical appraisal of current knowledge in order to produce a new and original research question. Students will examine three research articles on a preselected topic to propose an extension to that past research. They will use core scientific skills such as critical thinking. Week 1 - Guidance / Casenove, Iwata, Satoh, Imamura Week 2 - Finding references on Web of Science / Casenove, Imamura Week 3 - Reading and annotating / Casenove, Iwata Week 4 - Gaps in the knowledge / Casenove, Satoh Week 5 - Formality rules / Casenove, Imamura Week 6 - Proposal review / Casenove, Iwata Week 7 - Presentation / Casenove, Iwata, Satoh, Imamura Week 8 - Feedback and comments / Casenove, Iwata, Satoh, Imamura (22岩田裕子/5回 24佐藤奈保/5回 33今村恵美子/5回 48カズノブ・ダビッド/8回) | オムニバス方式 |
| | | アカデミック・コミュニケーションⅡ(ライティングの基礎) | The aim of this elective course is to explore the aspects academic communication that are specific to nursing science. Students will learn how to compose a research article in nursing research using primary data. Specifically, each session will focus on a distinct section of the research article and students will practice in groups the rules of scientific writing. Students will analyze nursing data, synthesize findings and organize these findings in a final abstract. Core scientific skills such as hypothesis testing using statistics will be required. Week 1 - Guidance / Casenove, Iwata, Satoh, Imamura Week 2 - Methods / Casenove, Satoh Week 3 - Results / Casenove, Satoh Week 4 - Review for Methods and Results / Casenove, Satoh Week 5 - Introduction / Casenove, Iwata Week 6 - Discussion / Casenove, Iwata Week 7 - Review of Introduction and Discussion / Casenove, Imamura Week 8 - Feedback and comments / Casenove, Iwata, Satoh, Imamura (22岩田裕子/4回 24佐藤奈保/5回 33今村恵美子/3回 48カズノブ・ダビッド/8回) | オムニバス方式 |

| | | | |
|--------|---------------|--|---------|
| 共通基盤科目 | 研究学術モジュール | <p>アカデミック・コミュニケーションⅢ（日本語での論述）</p> <p>日本語での研究計画や論文の執筆に必要なアカデミックライティングの基本、および成果発表に必要なプレゼンテーションの基本を理解し、個人・グループワークを通じてその活用方法を身につける。</p> <p>（オムニバス方/全8回） 第1回 オリエンテーション：この科目の概要と参考文献の紹介，導入ピアレビュー（担当：小宮山） 第2回 日本語アカデミックライティング(1)：文の構造と文章の流れ（担当：小宮山） 第3回 日本語アカデミックライティング(2)：パラグラフとトピック・センテンス（担当：小宮山） 第4回 日本語アカデミックライティング(3)：事実と意見，わかりやすく簡潔な表現，読みやすさへの配慮（担当：小宮山） 第5回 学術論文の構成：論文の構成と各セクションで述べるべきこと（担当：辻村） 第6回 プレゼンテーション(1)：わかりやすいプレゼンテーションに求められること（担当：辻村） 第7回 プレゼンテーション(2)：わかりやすい口演発表（担当：岩田） 第8回 プレゼンテーション(3)：わかりやすいポスター発表（担当：岩田）</p> <p>担当教員：8小宮山政敏/4回、20辻村真由子/2回、22岩田裕子/2回</p> | オムニバス方式 |
| | 看護革新力の基礎 | <p>看護をとりまく現状のしくみや制度などの限界を超えて、人々がそれぞれの力を発揮しながら健康に生きる未来の姿を明確に思い描き、その実現に向けて看護の立場から現状を変革するための発想力、すなわち看護革新力について理解し、その能力開発に向けた自身の方向性を見出す。（全8回）</p> <p>（17 和住 淑子・5 眞嶋 朋子・14 手島 恵・12 中山 登志子・23 齊藤 しのぶ・26 錢 淑君・32 高木 夏恵・38 山崎 由利亜・43 鈴木 悟子・44 湯本 晶代/全8回）</p> | 共同 |
| | 実装モジュール | <p>EBP実装</p> <p>EBP実装に必要なEBPのモデル、目的、方略を理解したうえで実際のEBP実装計画立案の方法を論述する。 臨床疑問の明確化と必要なエビデンスの統合にもとづき、組織的にEvidence Based Practiceを展開するための基本的な知識を得る。 ①臨床疑問の明確化とエビデンスの統合の方法を理解できる。 ②組織的にEBPを推進するためのEBP実装モデルを理解できる ③慣習に基づくケアの特定、分析、改善策立案の方法を理解できる ④EBPを推進するための変革的リーダーシップおよび実装リーダーシップを理解できる。</p> <p>1回目 オリエンテーション 酒井・池崎 2回目 EBP推進のための組織的方略およびEBP実装モデル 酒井 3回目 慣習に基づくケアの特定、臨床疑問の明確化 酒井 4回目 エビデンスの統合 池崎 5回目 EBP推進計画の立案 酒井 6回目 変革的リーダーシップと実装リーダーシップ 酒井 7回目 EBP実装の評価 池崎 8回目 自組織へのEBP実装計画(案)の発表と質疑応答 酒井、池崎</p> <p>総担当回数（15 酒井 郁子/6回、21 池崎 澄江/4回）</p> | オムニバス方式 |
| | プロジェクト・マネジメント | <p>患者利用者にとって最善のケア提供を目指す際に、研究者にも実践者にも必要なプロジェクト・マネジメントの理論と方略を論述する。</p> <p>プロジェクト・マネジメントに必要な理論および方略を理解し、自己の研究・実践活動に活用する。 ①プロジェクトの性質と定義を理解できる。 ②プロジェクトマネジメントに必要な基本的知識を理解できる ③プロジェクトマネジメントの進捗管理に必要な方略を理解できる ④プロジェクトの評価に必要な方略を理解できる</p> <p>1 オリエンテーション 酒井、杉田、飯野 2 プロジェクトの性質と定義 酒井 3～4 プロジェクトマネジメントに必要な基本的知識 酒井 5 プロジェクトマネジメントに必要な現状分析 杉田 6 プロジェクト計画の立案 飯野 7 プロジェクトの評価 杉田 8 まとめ 酒井、杉田、飯野</p> <p>総担当回数（15 酒井 郁子/4回、28 杉田由加里/4回、31飯野 理恵/3回）</p> | オムニバス方式 |

| | | | | |
|--------|---------|----------|--|---------|
| 共通基盤科目 | 実装モジュール | 看護管理学 | <p>看護サービスを安全で患者にとって安心できるように、かつ効率的・効果的に行うための看護管理にかかわる諸理論を学ぶとともに、その理論を、患者・家族、看護職員および保健医療福祉にかかわる他領域の人々との協働に活用し、改善に資する方策を学び、看護管理学領域の研究課題を検討する。</p> <p>第1回 導入/14 手島 恵 第2回 管理のパラダイムシフト/14 手島 恵 第3回 プロフェッションとイメージ/14 手島 恵 第4回 人材管理/14 手島 恵 第5回 リーダーシップ/14 手島 恵 第6回 看護管理と倫理/組織の管理/14 手島 恵 第7回 組織風土・組織文化/14 手島 恵 第8回 意思決定・交渉/14 手島 恵 第9回 看護の質評価のための指標の開発と検証/31 飯野 理恵 第10回 ケアの場の変革に向けたエビデンス創出/31 飯野 理恵 第11回～第12回 政策研究の実際/15 酒井 郁子 第13回～第15回 プレゼンテーション・まとめ/14 手島 恵・31 飯野 理恵 (14 手島 恵/11回、15酒井 郁子/2回、31飯野 理恵/5回)</p> | オムニバス方式 |
| | | 看護教育学 | <p>次世代の看護専門職者の育成に向け、わが国の看護学教育を牽引する役割を担う看護職者が、教育学および看護教育学の理論を適用して、看護継続教育の対象の特徴を考慮し系統的な教育活動を展開できる能力を修得する。</p> <p>(教育学および看護学教育に関する課題図書に精読に基づくプレゼンテーションと討議、講評、必要に応じて講義/全16回)</p> <p>(12 中山登志子、33 今村恵美子) 学生による成果発表、討議とその講評を通して、看護基礎教育・卒後教育・継続教育の目的と特徴・役割、各教育の有機的関連と問題の解決へと統合する。</p> | 共同 |
| | | 専門職連携教育論 | <p>他の専門分野の知識や技術を尊重し、協働を図りながら、新たな価値体系や実践の創造のできる基礎的理論や知識の習得と活用を目指し、専門職連携教育の歴史と背景、専門職連携実践能力を養成する基礎教育・継続教育のあり方について、現状の課題・今後の展望を論述する。(講義・反転授業/8回)</p> <p>(15酒井、27井出/1回) 専門職連携教育の歴史と背景について解説する。 (27井出・15酒井・31飯野・34臼井/2回) 専門職連携教育のアウトカムと目標について、参考資料及び文献を用いて解説し、ディスカッションポイントに沿って討議する。 (27井出・15酒井・31飯野・34臼井/2回) 専門職連携教育の学習コンテンツやプログラム構築について、参考資料及び文献を用いて解説し、ディスカッションポイントに沿って討議する。 (27井出・15酒井・31飯野・34臼井/3回) 専門職連携教育の評価方法と成果研究について、参考資料及び文献を用いて解説し、ディスカッションポイントに沿って討議する。</p> <p>(15 酒井 郁子/8回、27井出 成美/8回、31飯野 理恵/7回、34臼井いづみ/7回)</p> | オムニバス方式 |

| | | | |
|---------|-------------------|---|---------|
| 実装モジュール | 専門職連携実践論 | <p>他の専門分野の知識や技術を尊重し、協働を図りながら、新たな価値体系や実践の創造のできる基礎的理論や知識の習得と活用を目指し、専門職連携実践に必要な基本的な知識と理論を理解したうえで、連携に必要な態度と技術を論述し、自己および自組織の連携協働を評価する方法を論述する。(講義・ワーク/8回)</p> <p>(27 井出・15 酒井/1回) 専門職連携実践の基本的知識と理論的背景を解説する。 (34 臼井・31 飯野/1回) チームビルディングおよびチームマネジメントと評価の方法について解説するとともに、自分自身のチームへの貢献力とチームワークについて、簡単なワークを行い自己評価する。 (27 井出・31 飯野/1回) 多職種カンファレンスにおける基本動作について解説し、効果的な意思決定のためのカンファレンスの運営について模擬カンファレンスのワークを行い自己評価する。 (27 井出・34 臼井/2回) 職種間の対立とその解決方法について解説し、対立の分析と解決と合意形成のワークを行い自己評価する。 (15 酒井・34 臼井・27 井出・31 飯野/3回) 組織間連携の原則と災害時の多様な局面における多機関連携について解説し、事前学習(視聴覚教材の視聴と事前ワーク)の共有とディブリーフィングを行う。 (15 酒井 郁子/4回、27井出 成美/7回、31飯野 理恵/5回、34 臼井いづみ/5回)</p> | オムニバス方式 |
| | 看護理論 | <p>看護学の発達過程を歴史的・方法的・構造的に理解し、諸科学との関連を踏まえつつ、看護学を学問として体系化する基礎的能力を養う。</p> <p>第1回：看護理論並びにその活用の効果 山本利江 第2回：看護理論の活用の方法 和住淑子 第3～8回：各種看護理論の特徴、実践との関係の理解 山本利江 和住淑子 山崎由利亜 坂井文乃 飛世真理子 総担当回数 (11 山本利江/7回 17 和住淑子/7回 38山崎由利亜/6回 46坂井文乃/6回 47飛世真理子/6回)</p> | オムニバス方式 |
| | 看護倫理 | <p>看護専門職としての実践に必要な倫理的課題の検討や倫理調整について学び、その応用方法を学習する。 倫理的実践を行ったり、指導・管理したりする上で重要な概念を理解し、実践にいかす方略を修得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理調整の基本となる考え方を説明することができる。 2. 多角的な視点から倫理的課題をとらえることができる。 3. 倫理的課題を明確化することができる。 4. 倫理調整の具体的実践について述べることができる。 <p>(14 手島 恵/8回)</p> | |
| 実践モジュール | e-learning・演習臨床推論 | <p>臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学を習得するために、1. 診療のプロセス、2. 臨床推論(症候学を含む)の理論と演習、3. 医療面接の理論と演習・実習、4. 各種臨床検査の理論と演習、心電図/血液検査/尿検査/病理検査/微生物学検査/生理機能検査/その他の検査、5. 画像検査の理論と演習、放射線の影響、単純エックス線検査、超音波検査、CT・MRI/その他の画像検査、6. 臨床疫学の理論と演習を学習する。 (e-ラーニング・ペーパーシミュレーション方式/全30回) (5 眞嶋 朋子/30回, 15 酒井 郁子/30回, 19 田中 裕二/30回, 36 佐野 元洋/30回)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 診療のプロセス 2. 臨床推論(症候学を含む)の理論と演習 3. 医療面接の理論と演習・実習 4. 各種臨床検査の理論と演習 5. 画像検査の理論と演習 6. 臨床疫学の理論と演習 7. 科目試験 | 共同 |
| | 共通基盤科目 | | |

| | | | | |
|--------|---------|--------------------|--|---------|
| 共通基盤科目 | 実践モジュール | ナーシング・フィジカル・アセスメント | 対象の身体状況を包括的・系統的に査定し、臨床看護判断を行うための知識や技術を学ぶ (2 中村、37 仲井/2回) オリエンテーション、臨床判断とフィジカルアセスメント①総論 (63 白坂、2中村/2回) 臨床判断とフィジカルアセスメント②事例 (2 中村、37 仲井/1回) 呼吸器のフィジカルアセスメント (53 近藤/1回) 循環器のフィジカルアセスメント (56 平野/1回) 脳神経のフィジカルアセスメント (62 横内/1回) 感覚器 (眼科) のフィジカルアセスメント (2 中村、37 仲井/1回) 感覚器 (耳鼻科) のフィジカルアセスメント (52 市川/1回) 泌尿器・生殖器のフィジカルアセスメント (59 杉山/1回) 消化器のフィジカルアセスメント (60 橋本/1回) 筋・骨格器のフィジカルアセスメント (55 菱木/1回) 乳幼児のフィジカルアセスメント (2 中村、37 仲井/3回) トリアージと救急蘇生 (2 中村、37 仲井/3回) 事例を用いたアセスメント ①病態から身体機能、生活に至るアセスメント (2 中村、37 仲井/2回) 事例を用いたアセスメント ②対象特性別のアセスメント 自己技術演習 9回 | オムニバス方式 |
| | | 臨床病態学 | 基本的な病変の概念を理解した上で、代表的な疾患の病態について細胞・組織のレベルでその成り立ちや変化を説明できる力を修得する。授業では、基本的な病変の成り立ちを学んだあと、循環器系、呼吸器系、消化器系、内分泌系、造血器系、泌尿器系、生殖器系、脳神経系、運動器系の代表的な疾患について、実際の標本の提示・観察を交えながら解説する。 (講義 全15回) (4 岡田 忍/15回) | |
| | | 臨床薬理学 | 薬理学および薬物治療の概要および薬物動態の基本的概念を身につけた後、治療薬物モニタリング、精神科薬物療法、がん化学療法、栄養管理、感染症管理、緊急応急処置の観点から薬物治療を理解する。さらに、薬物治療における臨床上の問題点に関する大学院生相互のディスカッションおよび文献調査を通じて問題解決能力を高め、質の高い看護実践能力を修得する。 (オムニバス方式/全15回) (8 小宮山 政敏/8回) 薬理学の総論 (薬と法律、看護師の役割、薬理作用機序、有害作用、薬の体内運命、薬効に影響する因子、小児・妊婦・高齢者の薬物療法など)、救急時の薬物療法について解説し、薬物療法における臨床上の問題点等に関する演習を実施する。 (52 石井 伊都子/1回) 薬物治療の概論 (薬物の選択、投与量・投与方法・投与期間、配合・併用、効果・副作用、QOLと薬物治療の評価など) について解説する。 (8 小宮山 政敏 (山崎) /1回) 薬物動態を規定する過程とそれを制御する分子、影響する因子について解説する。 (57 鈴木 貴明/1回) 治療薬物モニタリング (TDM) の業務や投与設計について解説する。 (8 小宮山 政敏 (築地) /1回) 精神科薬物療法 (統合失調症、気分障害など) における薬の種類と特徴、作用メカニズム、モニタリングの方法等について解説する。 (8 小宮山 政敏 (今井) /1回) がん化学療法の位置づけ、各種理論、支持療法、臨床効果について解説する。 (8 小宮山 政敏 (新井) /1回) 薬物による栄養管理について解説する。 (65 三浦 剛/1回) 病院における感染対策の実際と、抗菌薬・消毒薬の適正使用について解説する。 | オムニバス方式 |

| | | | |
|-------------------|--------------------------|--|----|
| 共通基盤科目 実践モジュール | e-learning・演習フィジカルアセスメント | <p>対象者の健康状態を包括的に判断するために必要なフィジカルアセスメントの知識と方法を学ぶ。高度な看護実践を行うために、必要な情報を収集する。身体面の観察技術(面接、視診、触診、打診、聴診、測定)を習得し、経緯や自覚症状などと照らし合わせながら問診を行い、観察した結果から対象の健康状態を評価するまでの過程を学ぶ。また、小児・高齢者など身体診察の年齢により変化をともなうフィジカルアセスメントの知識、救急及び在宅医療の状況に応じた身体診察技術を修得する。(e-ラーニング・ペーパーシミュレーション方式/全45回)</p> <p>(5 眞嶋 朋子/45回, 15 酒井 郁子/45回, 19 田中 裕二/45回, 37 仲井あや/45回, 36 佐野 元洋/45回)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体診察基本手技の理論 (講義) 2. 全身状態とバイタルサイン 症状別 (講義) 3. 身体診察の年齢による変化 (講義) 4. 状況に応じた身体診察 (講義) 5. 身体診察基本手技の演習・実習/部位別身体診察手技と所見の演習・実習 6. 科目試験 | 共同 |
| | e-learning・演習臨床病態生理学 | <p>高度な看護実践に向けて、臨床病態(症状とメカニズム)について理解を深め、患者の身体を統合的に把握するための知識(臨床解剖学、臨床生理学、臨床病理学)を習得する。(e-ラーニング・ペーパーシミュレーション方式/全30回)</p> <p>(4 岡田 忍/8回, 5 眞嶋 朋子/8回, 15 酒井 郁子/8回, 19 田中 裕二/8回, 29 小川 俊子/8回, 36 佐野 元洋/8回)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床解剖学総論 全身の器官・臓器について個々の構造を学習し、なぜそのような構造をしているのかを、その器官・臓器の働きと関連づけて、人体を俯瞰して理解する。 2. 臨床生理学総論 人体の生理学的な機能異常に基づく代表的な疾患を理解し、エビデンスに基づいた最善のケアを提供できるよう、生理機能評価の方法と実際を学ぶ。 3. 臨床病理学総論 各器官・臓器ごとの疾病の定義と特徴および顕微鏡所見、病因論などを学ぶ。 | 共同 |
| | e-learning・演習疾病臨床病態学 | <p>頻度の高い主要疾患の診断・治療、状況に応じた臨床診断・治療(救急医学、在宅医療等)を理解する。また、臨床診断プロセスに必要な思考過程を習得する。(e-ラーニング・ペーパーシミュレーション方式/全40回)</p> <p>(4 岡田 忍/8回, 5 眞嶋 朋子/8回, 15 酒井 郁子/8回, 19 田中 裕二/8回, 29 小川 俊子/8回, 36 佐野 元洋/8回)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 循環器疾患・呼吸器疾患・消化器疾患等、プライマリ・ケアの場において遭遇することの多い主要な疾患・症状に対するの病態生理、臨床像、治療について基本的知識を学ぶ。 2. 救急医療の臨床診断・治療の特性と演習 3. 在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習 救急患者への対応や重症化予防の重要性を理解し、臨床診断・治療の特性に応じた治療を実践できる能力を培う。また、在宅医療において主要な病状の病態生理に基づいて、基本的な診察面接・身体診察・救急蘇生(Basic Life Support)の実際を学ぶ。 | 共同 |
| | e-learning・演習臨床薬理学 | <p>薬剤学・薬理学の基礎知識を深め、主要な疾患別の治療薬ならびに予防薬の薬効、作用機構、副作用、リスクマネジメント等、臨床における薬物の理論と実際について学習する。また、小児、女性、高齢者等、年齢による特性・個体差のある薬理作用と主要薬物の安全管理を学ぶ。(e-ラーニング・ペーパーシミュレーション方式/全45回)</p> <p>(5 眞嶋 朋子/8回, 15 酒井 郁子/8回, 19 田中 裕二/8回, 36 佐野 元洋/8回)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬剤学・薬理学の基礎知識を深め、薬物投与の基本概念を理解する。 2. 薬物の作用機序、生体内動態および主要薬物の薬理作用と副作用の関係を学ぶ。 3. 各種疾病の基本的な病態生理を考慮した上で、薬理学的根拠に基づいた適切な治療薬物の効果的な使用方法について学ぶ。 4. 主要薬物の安全管理と処方理論を理解する。 | 共同 |

| | | | | |
|--------|---------|-----------|--|---------|
| 共通基盤科目 | 実践モジュール | コンサルテーション | <p>看護実践の場における看護職を含むケア提供者が自身の抱える実践的な問題を解決できるよう、コンサルテーションの知識・技術・効果について論じ、その方法を学ぶ。(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(64 荻野 雅/2回) ヘルスケアチームの中での高度実践看護者の役割と、コンサルテーションにおける理論、定義、プロセス、コンサルタントとして必要な能力について解説する。 (1 正木治恵(瀬尾)/1回) コンサルテーションの実際の展開例について、自身のCNSとしての経験を踏まえて解説する。 (1 正木治恵/2回) ロールプレイ演習を通して、対人関係理論に基づいた信頼関係構築技術を解説する。 (1 正木治恵/3回)(39 佐々木ちひろ/3回) 事前課題で提出した事例のロールプレイ演習を通して、コンサルティと信頼関係を構築し、コンサルティが抱える実践的な問題を問題解決技法に基づき、協働して解決していくコンサルテーションの技術を修得させる。</p> | オムニバス方式 |
| | | 看護専門職論 | <p>専門職の要件を理解し、看護学を学的基盤に持つ看護専門職として活動するために必要な能力を修得する。 (討議を含むオムニバス方式/全8回)</p> <p>(12 中山登志子他/4回) 専門職についての諸定義と専門職に求められる共通の資質の諸要因を理解し、これまでの看護職としての活動を評価し課題を見出す。その後、各方面の看護専門職としての活動の実際を理解し、大学院生相互の討議を通して高度実践者として将来の活動を展望する。</p> <p>(9 森恵美、12 中山登志子、14 手島恵、18 石橋みゆき/各1回計4回) 看護管理、看護職育成、研究、政策立案等の各立場から、看護専門職としての活動とそれを支える信念、学的基盤について解説する。</p> <p>総担当回数 (9 森恵美/1回、12 中山登志子/5回、14 手島恵/1回、18 石橋みゆき/1回)</p> | オムニバス形式 |
| | | 組織マネジメント論 | <p>経営学や社会学で論じられている「組織論」や「マネジメント論」をヘルスケア組織のマネジメントと結び付けて理解する。また、組織を取り巻いている社会(外部環境)を踏まえたマネジメントの必要性と、組織に所属しているスタッフや関係者と組織の目的を達成するためのリーダーシップや人材育成の必要性について理解を深める。それらを通して、組織の課題解決に取り組むための能力を修得する。</p> <p>(31: 飯野理恵/4回(ゲストスピーカー2回含む) ①②③⑧) (17: 和住淑子/2回 ④⑤) (25: 黒田久美子/2回 ⑥⑦) (28: 杉田由加里/4回(ゲストスピーカー2回含む) ①②③⑧)</p> <p>①組織の理解 31: 飯野理恵、28: 杉田由加里 ②③組織管理における社会的責任 31: 飯野理恵、28: 杉田由加里 ④経営管理の理念と組織文化 17: 和住淑子 ⑤組織構造 17: 和住淑子 ⑥リーダーシップ 25: 黒田久美子 ⑦人材育成 25: 黒田久美子 ⑧インセンティブシステム 31: 飯野理恵、28: 杉田由加里</p> | オムニバス形式 |

| | | | |
|---|--|---|-----------|
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">共通基盤科目</p> | <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">実践モジュール</p> | <p>e-learning・医療安全学</p> <p>1. 特定行為実践に関する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証(講義) (5 眞嶋 朋子/30回, 15 酒井 郁子/30回, 19 田中 裕二/30回, 29 小川 俊子/30回, 44 湯本 晶代/30回、36 佐野 元洋/30回)</p> <p>1. 医療倫理 第1回 (1) 医療倫理・生命倫理の原則 第2回 (2) 特定行為と患者の権利・医療安全 第3回 (3) 研究倫理と特定行為</p> <p>2. 医療管理 第4回 (1) 特定行為における医療マネジメント 第5回 (2) リスクマネジメントと法規制 第6回 (3) 特定行為における診療報酬と医療安全</p> <p>3. 医療安全 第7回 (1) 特定行為における組織と医療安全 第8回 (2) 特定行為における個人と医療安全 第9回 (3) 特定行為における患者・家族と医療安全</p> <p>4. ケアの質保証 第10回 (1) 特定行為におけるケアの質保証～医療安全との関連 第11回 (2) 特定行為におけるケアの質保証～医療訴訟との関連 第12回 (3) 特定行為におけるケアの質保証～ケアと医行為との関連</p> <p>2. 特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践 (Inter Professional Work (Ipw)) (他職種との事例検討等の演習を含む)</p> <p>第13回 (1) チーム医療の理論 チーム医療を実践するために知っておくべきこと(講義) 第15回 (2) チーム医療の事例検討 チームとしての最大を発揮する(演習) 第16回 (3) コンサルテーションの方法(講義) 第17回 (4) 多職種協働の課題 多職種との円滑な協働のためのマネジメント(講義)</p> <p>第18回 実習 面接 実習1 第19回 実習2 第20回 演習 面接 演習1【実習の振り返り】 第21回 演習2【実習の振り返り】</p> <p>3. 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ 第22回 (1) 特定行為関連法規(講義) 第23回 (2) 特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論(講義) 第24回 演習 面接 (3) 特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の演習 第25回 実習 面接 実習 第26回 演習 面接 演習【実習の振り返り】</p> <p>4. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ 第27回 (1) 手順書の位置づけ(講義)</p> <p>第28、29回 演習 面接 (2) 手順書の作成演習 ペーパーシミュレーションによる演習 第30回 (3) 手順書の評価と改良(講義) 第30回 面接 実習1 第31回 実習2 第32回 実習3</p> <p>5. 特定行為実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査診断過程を学ぶ過程で、これまでの学びを統合する。 第33回 (1) 特定行為実践に必要な思考と実践(講義) 第34回 (2) 特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ①(講義) 第35回 (3) 特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ②(講義) 第36回 (4) 特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ 演習1 第37回 (5) 特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ 演習2 第38回 (6) 特定行為実践のアウトカム(講義) 第39回 (7) 特定行為実践のアウトカム 演習1 第40回 (8) 特定行為実践のアウトカム 演習2 第41回 面接 実習1(実習) 第42回 実習2 第43回 演習1【実習の振り返り】 第44回 演習2【実習の振り返り】</p> <p>6. 科目試験 第45回 科目試験</p> | <p>共同</p> |
|---|--|---|-----------|

| | | | | |
|--------|---------|----------------|--|---------|
| 共通基盤科目 | 実践モジュール | 災害マネジメント論 | <p>災害時の被災地支援についてマネジメントの観点から基本知識を修得すると共に実践的な思考力を養う。毎回の授業において講義と共に討議を含め進める。(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(13 宮崎美砂子/3回) 災害の特性、被災地支援にかかわる人材・組織・体制、支援の仕組み・制度、災害時におけるマネジメントの特徴について解説する。</p> <p>(24 佐藤奈保/3回) 被災者に必要な支援や配慮、災害時に配慮を必要とする人々への支援、二次的健康被害の防止、避難所の運営における課題とマネジメントについて解説する。</p> <p>(18 石橋みゆき/2回) 災害時における住民同士の助け合い、支援者間の連携・協働における課題とマネジメントについて解説する。</p> | オムニバス方式 |
| | | 災害専門職連携演習 | <p>災害時という特殊な状況下において、被災地の課題を的確に把握し多様な能力を有する人々と協働して問題解決を図るために必要な態度や技術、連携協働を評価する方法について論述するとともに、演習を通じてこれらを遂行する能力を養う。(講義・演習/15回)</p> <p>(Day1 15 酒井・27井出・34 白井/4回) オリエンテーションを行う(井出)。また演習に必要な知識として演習の舞台となる茨城県常総市の地形や気候の特徴から起こりやすい災害を解説する。水害発災時の市災害対策本部における避難所対策班および河川情報班の情報収集・分析・意思決定のシミュレーション演習(A)を行う。(酒井・井出・白井)</p> <p>(Day2 15 酒井・27井出・34 白井/5回) 水害発災時の市災害対策本部における統括班における情報収集・分析・意思決定のシミュレーション演習(A)を行う(酒井・白井・井出)。また復興期の住民のコミュニティ再生プランに向けた住民支援のシミュレーション演習(B)に向け、住民の意見を集約し合意形成を行うためのワークショップと合意形成の方法について講義で解説する。</p> <p>(Day3 15 酒井・27井出・34 白井/5回) 復興期の住民のコミュニティ再生プランに向けた住民支援のシミュレーション演習(B)として、住民対象のワークショップを企画し実施する。 二つのシミュレーション演習のディブリーフィングを行う。住民の意見を集約し、それを反映させてコミュニティ再生プランと住民への説明資料を作成する。 総担当回数(15 酒井 郁子/15回・27井出 成美/15回・34 白井 いづみ/15回)</p> | オムニバス方式 |
| | | 災害看護活動論(復旧・復興) | <p>災害時に中長期的な視野で対応が必要な復旧・復興期の健康課題を明らかにし、活動を構築していく方法を学ぶ。毎回の授業において講義と共に討議を含め進める。(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(13 宮崎美砂子/3回) 災害サイクルにおける復旧・復興期の健康課題、コミュニティを単位にした持続的なアセスメント・分析に基づく組織的な支援体制づくりの方法について解説する。</p> <p>(24 佐藤奈保/3回) 疾病・障害をもつ人々が災害時に抱える問題と中長期的な支援の方法、災害エスノグラフィーについて解説する。</p> <p>(18 石橋みゆき/2回) 災害につよい人づくり・まちづくり、地域文化の創成の方法について解説する。</p> | オムニバス方式 |

| | | | | |
|--------|---------|-----------|--|---------|
| 共通基盤科目 | 実践モジュール | 地域包括ケア論 | <p>地域包括ケアの理念を理解し、地域包括ケアシステムの構築のために必要な知識と方略を論述し、地域包括ケアシステムの評価の方法と改善に貢献するための方略を論述する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(7 石丸美奈/4回、27 井出成美/4回、20 辻村真由子/4回、31 飯野理恵/4回、33 今村 恵美子/4回、43 鈴木 悟子/2回、46 坂井 文乃/2回)</p> <p>1-2 地域包括ケアの理念と構成要素、地域包括ケアシステムを取り巻く背景 (地域包括ケアにおける自助、互助、共助、公助、人口構造と世帯構成の変化や医療介護制度の展開と社会保障との関連など) 石丸 辻村、今村</p> <p>3-4 医療・介護の連携 (退院調整、在宅ケア、専門職連携、ケア会議など) 井出、辻村、今村</p> <p>5-6 生活支援・介護予防 (介護予防とリハビリテーション、互助、住民活動など) 井出、飯野、鈴木</p> <p>7-8 地域ネットワークづくりとまちづくり (実践コミュニティ、住民主体のまちづくりなど) 石丸、飯野、坂井</p> | オムニバス形式 |
| | | 看護政策 | <p>我が国の保健・医療・福祉及び高等教育政策の動向を踏まえ、看護職者が政策決定プロセスに関わることの意義と方法について論述する。</p> <p>我が国の保健・医療・福祉及び高等教育政策の動向を踏まえ、看護職者が政策決定プロセスに関わることの意義と方法について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策決定プロセスと、看護職者が政策決定プロセスに関わる意義について理解する。 ・自身が看護職者として現在直面している問題について、保健・医療・福祉及び高等教育政策の動向を踏まえて背景を分析し、看護政策上の課題を明確化できる。 ・自身が関心を抱いた看護政策上の課題について、現状を調査して、具体的な提言ができる。 <p>(オムニバス方式)</p> <p>第1回 看護政策の基礎と政策決定プロセス 和住 第2回～第3回 保健・医療・福祉政策の動向と看護職による政策活動の実際(1) 和住、初村(非常勤講師) 第4回～第5回 保健・医療・福祉政策の動向と看護職による政策活動の実際(2) 和住、石井(非常勤講師) 第6回～第8回 看護政策上の課題の明確化と提言 和住・斉藤・池崎・石橋・高木</p> <p>(17和住淑子/8回、23斉藤しのぶ/3回、21 池崎澄江/3回、18 石橋みゆき/3回、高木夏恵/3回)</p> | オムニバス方式 |
| 専門科目 | 看護学コース | 先端実践看護学 I | <p>現代社会における高度な看護実践に資する新領域の看護の創造に向けて理論開発研究を推進するために必要となる基礎的理論や知識を広く修得し、自身の研究課題を分析する。</p> <p>(18 石橋 みゆき、4 岡田 忍、2 中村 伸枝、5 眞嶋 朋子、3 増島 麻里子、1 正木 治恵、24 佐藤 奈保、25 黒田 久美子、29 小川 俊子、37 仲井 あや、40 中水流 彩、35 楠 潤子、38 山崎 由利亜、39 佐々木 ちひろ、36 佐野 元洋/全8回)</p> <p>(1回) 関連の理論・概念の選択 担当教員は、現代社会における高度な看護実践について研究を推進するために必要となる理論や概念、基本的知識を「課題」として提示する。</p> <p>(2～7回) 大学院生のプレゼンテーションと討議 自身の研究領域に沿って提示された課題を選択し、自身で課題探究のための問いすなわち”リサーチクエスション“を設定し、文献・資料・情報を検索し批判的に吟味する。 「課題」について調べた内容をプレゼンテーションする。その内容もとに、現代社会における高度看護実践に適用する際の意義と問題点について討議する。プレゼンテーションを担当する教員は、目標に照らして院生の到達度を把握し、適宜研究課題が分析できるよう助言する。</p> <p>(8回) 研究課題焦点化についてプレゼンテーション</p> | 共同 |

| | | | | |
|------------------|----------------------------|----------|--|----------------|
| 専 門 科 目 | 看 護 学 コ ー ス | 生活創成看護学Ⅰ | <p>人々の生活の安寧および質の向上に貢献するための創造的な生活支援および健康増進を推進する看護の観点から、生活創成看護学が扱う主要なトピックスについて、社会的な背景や歴史的な変遷、看護実践への活用・適用、国内外の研究の動向を調べ、大学院生相互のディスカッションを通して、各自の関心領域における研究課題を分析するための基盤となる知識と思考力を修得する。</p> <p>(7 石丸 美奈/4回、10 北池正/4回、9 森恵美/4回、13 宮崎美砂子/4回)</p> <p>ヘルスプロモーション、予防、エンパワメントなどの主要なトピックスに関する課題分析について助言する</p> <p>(7 石丸美奈4/回、15 酒井郁子/4回、8 小宮山政敏/4回、6 諏訪さゆり/4回)</p> <p>ノーマライゼーション、リハビリテーション、ロングタームケアなどの主要なトピックスに関する課題分析について助言する</p> | オムニバス形式 |
| | | 文化創成看護学Ⅰ | <p>文化創成看護学を構成する各専門領域の看護実践や教育に必要な諸理論、知識、新たな研究を推進するための基盤となる理論やモデルを理解し、研究課題の焦点化に向け、自己の専門領域における研究の必要性を検討する。</p> <p>(演習、一部オムニバス方式による講義を含む)</p> <p>第1回：ガイダンス (中山)</p> <p>第2回：理論看護学 (山本先生・斉藤先生・飛世先生)</p> <p>第3回：看護教育学 (中山・カズノブ先生)</p> <p>第4回：専門職連携 (井出先生)</p> <p>第5回：政策・教育開発研究 (和住先生・錢先生)</p> <p>第6回：ケア開発研究・看護評価学 (野地先生)</p> <p>第7回：病院看護システム管理学 (手島先生)</p> <p>第8回：地域看護システム管理学 (杉田先生・飯野先生)</p> <p>総担当回数 (11 山本利江、12 中山登志子、14 手島恵回、16 野地有子、17 和住淑子、23 斉藤しのぶ、26 錢淑君、27 井出成美、28 杉田由加里、31 飯野理恵、47 飛世真理子、48 カズノブ・ダビッド)</p> | 演習 (一部オムニバス方式) |
| | | 先端実践看護学Ⅱ | <p>現代社会における高度な看護実践に資する新領域の看護の創造を理論開発の面から推進するために、諸理論や既存の看護モデルを用い、実践事例の分析を通して、先端実践看護学Ⅰで検討した研究課題を探究するための研究方法について論述する。</p> <p>高度な看護実践を素材とする研究を実施する上での倫理的課題を特定し、倫理的課題を解決するための研究方法を検討する。</p> <p>複数の教員が共同で担当する。</p> <p>(18 石橋 みゆき、4 岡田 忍、2 中村 伸枝、5 眞嶋 朋子、3 増島 麻里子、1 正木 治恵、24 佐藤 奈保、25 黒田 久美子、29 小川 俊子、37 仲井 あや、40 中水流 彩、35 楠 潤子、38 山崎 由利亜、39 佐々木 ちひろ、36 佐野 元洋/全8回)</p> <p>ゼミナール形式により大学生のプレゼンテーションと討議を繰り返す。</p> <p>プレゼンテーションは、学生一人につき、2回以上を担当する。</p> <p>学生は焦点化した研究課題を探究するための研究方法案を資料として提示する。資料は、使用した理論や看護モデルとその根拠となる文献 (先行研究例が望ましい、海外の文献を必ず含む) を併せて事前配布し、ディスカッションの準備をする。</p> <p>1回目の討議を踏まえ、2回目以降は修正・発展させた部分を中心にプレゼンテーションする。</p> <p>教員は、ファシリテーターとして、院生の発表、討議内容と目標への到達度とを照合しながら、院生自身が研究方法論が検討できるよう助言する。</p> | 共同 |

| | | | | |
|------|--------|------------|---|---------|
| 専門科目 | 看護学コース | 生活創成看護学Ⅱ | <p>生活創成看護学Ⅰで検討した自らの研究疑問について、どのような哲学や理論を基盤に、どのような研究方法が用いられているか国内外の先行研究をレビューし、さらに大学院生相互のディスカッションを通して、各自の関心領域における研究疑問を解明するための知識と思考力を修得する。</p> <p>第1回 オリエンテーション 石丸 第2回 社会的背景と研究動向の分析 ①ヘルスプロモーション 創造的な生活支援と健康増進の観点から 石丸美奈、田中裕二、池崎澄江、岩田裕子、湯本品代、坂井文乃、木村佳代子 第3回 社会的背景と研究動向の分析 ②予防 創造的な生活支援と健康増進の観点から 石丸美奈、田中裕二、池崎澄江、岩田裕子、湯本品代、坂井文乃、木村佳代子 第4回 社会的背景と研究動向の分析 ③エンパワメント 創造的な生活支援と健康増進の観点から 石丸美奈、田中裕二、池崎澄江、岩田裕子、湯本品代、坂井文乃、木村佳代子 第5回 社会的背景と研究動向の分析 ④ノーマライゼーション 創造的な生活支援と健康増進の観点から 石丸美奈、辻村真由子、野崎章子、今村恵美子、雨宮歩、鈴木悟子、遠山房江 第6回 社会的背景と研究動向の分析 ⑤リハビリテーション 創造的な生活支援と健康増進の観点から 石丸美奈、辻村真由子、野崎章子、今村恵美子、雨宮歩、鈴木悟子、遠山房江 第7回 社会的背景と研究動向の分析 ⑥ロングタームケア 創造的な生活支援と健康増進の観点から 石丸美奈、辻村真由子、野崎章子、今村恵美子、雨宮歩、鈴木悟子、遠山房江 第8回 まとめ 創造的な生活支援と健康増進の観点から 石丸美奈、田中裕二、池崎澄江、岩田裕子、辻村真由子、野崎章子、今村恵美子、雨宮歩、鈴木悟子、湯本品代、木村佳代子、遠山房江、坂井文乃</p> <p>(7 石丸美奈/8回、19 田中裕二/4回、21 池崎澄江/4回、22 岩田裕子/4回、20 辻村真由子/4回、30 野崎章子/4回、33今村恵美子/4回、42 雨宮歩/4回、43 鈴木悟子/4回、45 木村佳代子/4回、41 遠山房江/4回、44 湯本品代/4回、46 坂井文乃/4回)</p> | オムニバス方式 |
| | | 文化創成看護学Ⅱ | <p>学生が各自の関心や実践経験、問題意識に基づき、文化創成看護学における各専門領域の国内外の原著論文を精読、批評し、研究課題を明確にするとともに、研究目的に即した研究方法を選択するための基盤となる知識を修得する。 (学生によるプレゼンテーションの後、討議と講評)</p> <p>(11 山本利江、12 中山登志子、14 手島恵、16 野地有子、17 和住淑子、23 齊藤しのぶ、26 錢淑君、27 井出成美、28 杉田由加里、31 飯野理恵、47 飛世真理子、48 カズノブ・ダビッド/8回)</p> <p>各回、学生が、自身の関心や問題意識に基づき選択した研究論文に対して、研究の概要、批評、研究課題の明確化に向け得られた示唆、その他、討議したい内容などをプレゼンテーションする。その後、研究課題の明確化と適切な研究方法の決定に向け、討議するとともに、不足知識を補足したり課題を提示したりする。</p> | 共同 |
| | | 先端実践看護管理学Ⅰ | <p>新たな看護実践の必要性に向けて、自組織における課題解決を目指した課題研究に向けて、問題意識や課題に関連する理論・概念を視点にして、大学院生が自組織の現状分析をすすめ、自組織の理解を深める。関連の理論・概念の選択は学生が行い、教員はその理解と現状分析への活用を促進する。 ゼミナール方式により大学院生のプレゼンテーションとディスカッションを繰り返す。学生一人につき、2回以上を担当する。 (25 黒田 久美子/8回) (18 石橋 みゆき/8回)</p> | 共同 |

| | | | | |
|------|--------|-------------|--|---------|
| 専門科目 | 看護学コース | 生活創成看護管理学 I | <p>地域の看護システムの視点から、地域包括ケアシステムのケアニーズを効果的・効率的に充足するために、自組織および地域包括ケアシステムの状況を分析し、自組織の看護管理を振り返ることをとおして、課題とその背景を論述する。 (オムニバス方式/全8回) (6 諏訪 さゆり/5回)</p> <p>保健・医療・介護・福祉に関する政策動向と現状の問題について指導する。さらに、地域包括ケアシステムの充実の観点から、学生が自組織の看護管理を振り返ることをとおして、自組織の課題とその背景に関して明らかにできるよう指導する。 (7 石丸 美奈/4回)</p> <p>地域包括ケアシステムの充実の観点から学生が自組織の看護管理を振り返ることをとおして、自組織の課題とその背景に関して明らかにできるよう指導する。 (9 森 恵美/4回)</p> <p>地域包括ケアシステムの充実に向けて、学生が健康増進の観点から自組織の看護管理を振り返ることをとおして、自組織の課題とその背景に関して明らかにできるよう指導する。 (10 北池 正/4回)</p> <p>地域包括ケアシステムの充実に向けて、学生が健康増進の観点から自組織の看護管理を振り返ることをとおして、自組織の課題とその背景に関して明らかにできるよう指導する。 (13 宮崎 美砂子/4回)</p> <p>地域包括ケアシステムの充実の観点から学生が自組織の看護管理を振り返ることをとおして、自組織の課題とその背景に関して明らかにできるよう指導する。 (19 田中 裕二/4回)</p> <p>地域包括ケアシステムの充実に向けて、学生が健康増進の観点から自組織の看護管理を振り返ることをとおして、自組織の課題とその背景に関して明らかにできるよう指導する。 (21 池崎 澄江/4回)</p> <p>地域包括ケアシステムの充実に向けて、学生が健康増進の観点から自組織の看護管理を振り返ることをとおして、自組織の課題とその背景に関して明らかにできるよう指導する。 (22 岩田 裕子/4回)</p> <p>地域包括ケアシステムの充実に向けて、学生が健康増進の観点から自組織の看護管理を振り返ることをとおして、自組織の課題とその背景に関して明らかにできるよう指導する。 (29 小川 俊子/4回)</p> <p>地域包括ケアシステムの充実に向けて、学生が健康増進の観点から自組織の看護管理を振り返ることをとおして、自組織の課題とその背景に関して明らかにできるよう指導する。 (33 今村 恵美子/4回)</p> <p>地域包括ケアシステムの充実の観点から学生が自組織の看護管理を振り返ることをとおして、自組織の課題とその背景に関して明らかにできるよう指導する。 (41 遠山 房絵/4回)</p> <p>地域包括ケアシステムの充実に向けて、学生が健康増進の観点から自組織の看護管理を振り返ることをとおして、自組織の課題とその背景に関して明らかにできるよう指導する。 (43 鈴木 悟子/4回)</p> <p>地域包括ケアシステムの充実の観点から学生が自組織の看護管理を振り返ることをとおして、自組織の課題とその背景に関して明らかにできるよう指導する。 (44 湯本 晶代/4回)</p> <p>地域包括ケアシステムの充実の観点から学生が自組織の看護管理を振り返ることをとおして、自組織の課題とその背景に関して明らかにできるよう指導する。 (45 木村 佳代子/4回)</p> <p>地域包括ケアシステムの充実に向けて、学生が健康増進の観点から自組織の看護管理を振り返ることをとおして、自組織の課題とその背景に関して明らかにできるよう指導する。 (46 坂井 文乃/4回)</p> <p>地域包括ケアシステムの充実の観点から学生が自組織の看護管理を振り返ることをとおして、自組織の課題とその背景に関して明らかにできるよう指導する。</p> | オムニバス方式 |
| | | 文化創成看護管理学 I | <p>組織および組織をとりまく社会情勢を過程的・構造的に分析する方法論を学習し、それを意識的に活用して自身の所属組織および組織をとりまく社会情勢を実際に分析してみる体験をする。その体験を通して、過程的・構造的なものの方・考え方を修得する上での自身の課題を明らかにする。(全8回)</p> <p>(17 和住 淑子・14 手島 恵・16 野地 有子・12 中山 登志子・23 齊藤 しのぶ・26 錢 淑君・27 井出 成美・28・杉田 由加里・31 飯野 理恵・32 高木 夏恵・47 飛世 真理子・48 カズノブ ダビッド/8回)</p> | 共同 |

| | | | | |
|------------------|----------------------------|------------|--|---------|
| 専 門 科 目 | 看 護 学 コ ー ス | 先端実践看護管理学Ⅱ | <p>新たな看護実践の必要性に向けて、自組織における課題解決を目指した課題研究に向けて、自組織の現状分析と文献検討をもとに討議し、研究課題を明確化し、研究方法を考察する。</p> <p>ゼミナール形式により大学生のプレゼンテーションとディスカッションを繰り返す。学生一人につき、2回以上を担当する。</p> <p>(25 黒田 久美子/8回) (18 石橋 みゆき/8回)</p> | 共同 |
| | | 生活創成看護管理学Ⅱ | <p>地域包括ケアシステムにおいて自組織の役割、機能を発揮するために、看護管理者として人材育成、サービスの質評価と改善、ケア環境に関する自組織の課題を明確化し、解決に向けた効果的な方策について論述する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (6 諏訪 さゆり/5回)</p> <p>共通基盤科目における看護管理学に関連した学び、および生活創成看護管理学Ⅰでの学びを確認する。さらに、地域包括ケアシステムの充実の観点から、学生が自組織の課題を地域の状況、人材育成、サービスの質評価と改善、ケア環境等について看護管理者として明確化し、解決するための方策について指導する。</p> <p>(7 石丸 美奈/4回)</p> <p>地域包括ケアシステムの充実の観点から、学生が自組織の課題を地域の状況、人材育成、サービスの質評価と改善、ケア環境等について看護管理者として明確化し、解決するための方策について指導する。</p> <p>(9 森 恵美/4回)</p> <p>地域包括ケアシステムの充実に向けて、学生が自組織の課題を地域の状況、人材育成、サービスの質評価と改善、ケア環境等について健康増進の観点から看護管理者として明確化し、解決するための方策について指導する。</p> <p>(10 北池 正/4回)</p> <p>地域包括ケアシステムの充実に向けて、学生が自組織の課題を地域の状況、人材育成、サービスの質評価と改善、ケア環境等について健康増進の観点から看護管理者として明確化し、解決するための方策について指導する。</p> <p>(13 宮崎 美砂子/4回)</p> <p>地域包括ケアシステムの充実の観点から、学生が自組織の課題を地域の状況、人材育成、サービスの質評価と改善、ケア環境等について看護管理者として明確化し、解決するための方策について指導する。</p> <p>(19 田中 裕二/4回)</p> <p>地域包括ケアシステムの充実に向けて、学生が自組織の課題を地域の状況、人材育成、サービスの質評価と改善、ケア環境等について健康増進の観点から看護管理者として明確化し、解決するための方策について指導する。</p> <p>(21 池崎 澄江/4回)</p> <p>地域包括ケアシステムの充実に向けて、学生が自組織の課題を地域の状況、人材育成、サービスの質評価と改善、ケア環境等について健康増進の観点から看護管理者として明確化し、解決するための方策について指導する。</p> <p>(22 岩田 裕子/4回)</p> <p>地域包括ケアシステムの充実に向けて、学生が自組織の課題を地域の状況、人材育成、サービスの質評価と改善、ケア環境等について健康増進の観点から看護管理者として明確化し、解決するための方策について指導する。</p> <p>(29 小川 俊子/4回)</p> <p>地域包括ケアシステムの充実に向けて、学生が自組織の課題を地域の状況、人材育成、サービスの質評価と改善、ケア環境等について健康増進の観点から看護管理者として明確化し、解決するための方策について指導する。</p> <p>(33 今村 恵美子/4回)</p> <p>地域包括ケアシステムの充実の観点から、学生が自組織の課題を地域の状況、人材育成、サービスの質評価と改善、ケア環境等について看護管理者として明確化し、解決するための方策について指導する。</p> <p>(41 遠山 房絵/4回)</p> <p>地域包括ケアシステムの充実に向けて、学生が自組織の課題を地域の状況、人材育成、サービスの質評価と改善、ケア環境等について健康増進の観点から看護管理者として明確化し、解決するための方策について指導する。</p> | オムニバス方式 |

| | | | |
|------|------------|---|----|
| | 看護学コース | <p>(43 鈴木 悟子/4回) 地域包括ケアシステムの充実の観点から、学生が自組織の課題を地域の状況、人材育成、サービスの質評価と改善、ケア環境等について看護管理者として明確化し、解決するための方策について指導する。</p> <p>(44 湯本 晶代/4回) 地域包括ケアシステムの充実の観点から、学生が自組織の課題を地域の状況、人材育成、サービスの質評価と改善、ケア環境等について看護管理者として明確化し、解決するための方策について指導する。</p> <p>(45 木村 佳代子/4回) 地域包括ケアシステムの充実に向けて、学生が健康増進の観点から自組織の課題を地域の状況、人材育成、サービスの質評価と改善、ケア環境等について健康増進の観点から看護管理者として明確化し、解決するための方策について指導する。</p> <p>(46 坂井 文乃/4回) 地域包括ケアシステムの充実の観点から、学生が自組織の課題を地域の状況、人材育成、サービスの質評価と改善、ケア環境等について看護管理者として明確化し、解決するための方策について指導する。</p> | |
| 専門科目 | 文化創成看護管理学Ⅱ | <p>自組織および組織をとりまく社会情勢を過程的・構造的に分析した結果を踏まえ、個々の看護職者がその専門性を発揮して組織の使命・理念を実現する上で、自組織にはどのような課題があるのかを特定し、その解決策について考究する。(全8回)</p> <p>(17 和住 淑子・14 手島 恵・16 野地 有子・12 中山 登志子・23 斉藤 しのぶ・26 錢 淑君・27 井出 成美・28・杉田 由加里・31 飯野 理恵・32 高木 夏恵・47 飛世 真理子・48 カズノブ ダビッド/8回)</p> | 共同 |
| | 小児看護学A | <p>成長発達理論や家族理論、セルフケア理論、コーピング理論等、小児看護の基盤を成す理論について理解を深め、小児看護への活用を考察する</p> <p>(2 中村/15回、24 佐藤/15回、37 仲井/15回、40 中水流/15回) 1～5回：家族の定義、日本における小児と家族の動向、代表的な家族理論について理解し、小児看護への活用を考察する 6～10回：新生児期から思春期にわたる成長発達について代表的な理論と共に理解する 11回～15回：小児とその家族のセルフケアやコーピング等に関する理論について、発達段階をふまえて理解し小児看護への活用を考察する</p> | 共同 |
| | 小児看護学B | <p>・小児看護領域における倫理的問題の特徴と倫理調整、ソーシャルサポートについて理解を深める</p> <p>・様々な健康問題や状況にある小児に対し、成長発達段階をふまえた高度実践看護の知識と視点を修得する</p> <p>(2 中村/15回、24 佐藤/15回、37 仲井/15回、40 中水流/15回) 1～2回：小児看護領域における倫理的問題 3～4回：小児看護領域におけるソーシャルサポート 5～6回：急性期にある小児と家族への看護援助 周手術期にある小児と家族への看護援助 7～8回：慢性状態にある小児と家族への看護援助 成人期への移行支援 9～10回：重症心身障害児・高度医療依存児と家族への看護援助 在宅移行支援 11回：小児におけるエンドオブライフケア 12～13回：様々な状況にある小児と家族への看護援助 14～15回：専門看護師による高度看護実践</p> | 共同 |
| | 小児と環境の査定 | <p>小児の成長発達評価や健康状態および環境を査定するために必要となる高度実践看護の知識と技法を修得する</p> <p>(2 中村/15回、24 佐藤/15回、37 仲井/15回、40 中水流/15回) 1～8回：小児のフィジカルアセスメント 9回：小児の成長評価 10～11回：小児の発達アセスメント 12回：小児の環境のアセスメント 13～15回：フィールドワーク</p> | 共同 |
| | 看護実践学コース | | |

| | | | | |
|------------------|--------------------------------------|------------|--|---------|
| 専 門 科 目 | 看 護 実 践 学 コ ー ス | 小児の病態・治療 | 小児の代表的な疾患について、その病態・診断・治療法を学び、高度実践看護の基礎となる知識を修得する (2 中村、24 佐藤、37 仲井、40 中水流 1回) 小児の代表的疾患 (概論) (57 菱木、61 日野 12回) 小児の代表的疾患の病態・診断・治療 (各論) (2 中村 1回) 遺伝カウンセリングと小児、家族への支援 (2 中村 1回) 治験を受ける小児と家族への看護 (2 中村/3回、24 佐藤/1回、37 仲井/1回、40 中水流/1回、(57 菱木、61 日野 12回)) | オムニバス方式 |
| | | 小児の保健・医療制度 | 小児を取り巻く日本の保健医療・社会福祉制度とその適応、活用の現状と課題について学び、専門看護師としての援助のあり方を考察する (2 中村/15回、24 佐藤/15回、37 仲井/15回、40 中水流/15回) 1～3回：小児を取り巻く日本の保健医療・社会福祉制度とその適応、活用の現状と課題 4回：学校保健と特別支援教育 5～10回：子育て支援センター等でのフィールドワーク 11～14回：慢性的な健康問題をもつ子どもの成長、健康状態、医療の場の変化に応じた保健医療・社会福祉制度の活用 15回：プレゼンテーションと討議 | 共同 |
| | | 成人看護学A | がん看護の対象である成人・老人およびその家族の治療期から終末期の各段階における看護の理論と方法を修得する。 (全15回) (5 眞嶋 朋子/15回) がん医療チームにおける専門職の連携のための理論(チームワークの理論 Model、専門職連携コンピテンシー理論)、QOLを高めるための理論、および、専門看護師の役割と機能の評価について主に概説する。 (3 増島 麻里子/15回) がん患者の診断期から周術期における意思決定、セルフケア支援、セルフマネージメントに関する理論、および、がん患者・家族の療養の場の意向支援するための理論と支援方法について主に概説する。 (35 楠 潤子/10回) がんサバイバーに関する看護実践に関連する理論と支援方法について主に概説する。 | オムニバス方式 |
| | | 成人看護学B | がん疾患あるいは予後不良や死にゆくことに伴って危機的状況に陥る成人・老人疾患及び家族に対して、有効な看護実践を行うための諸理論と看護介入モデルについて考究する。また、症状マネジメントを必要とする患者支援、がん患者の家族支援に関する理論について考究する。(全15回) (5 眞嶋 朋子/15回) 疾患の罹患や治療に伴う喪失や危機的状況に直面する患者及び家族に適用される喪失と危機理論の背景及び概念について概説し、がん看護における事例分析に基づき、看護支援への適用を促す。また、症状マネジメントモデルについての背景、概念について概説し、看護支援への適用を考究できるよう促す。 (3 増島 麻里子/15回) 危機介入モデル、コーピング理論について概説し、がん看護における事例分析に基づき、看護支援への適用を促す。また、がん患者の家族支援に関する理論の背景、概念について概説し、家族支援への適用を考究できるよう促す。 | 全員 |

| | | | |
|--|-----------------|--|---------|
| 専 門 科 目 看 護 実 践 学 コ ー ス | 臨床腫瘍学概論 | 臨床腫瘍学の観点から、臨床研究、治療について学習し、患者の病状に関する病態生理学的把握、および患者に適用されるがん治療方法の把握と治療に伴う問題の分析を行う。 (オムニバス方式/全15回) (5 眞嶋 朋子/7回) がんの発生機序、診断、治療経過に必要な検査について、概説する。特に、頭頸部・脳腫瘍、腎・泌尿器系がんを含む。また、これら疾患の薬物治療を受ける患者の病態生理、治療方法に基づく看護計画を立案しその根拠を説明できる臨床判断力を育成する。 (3 増島 麻里子/7回) がんの発生機序、診断、治療経過に必要な検査について、概説する。特に、上部消化器系がん、下部消化器系がん、乳がん、婦人科がんを含む。また、これら疾患の薬物治療を受ける患者の病態生理、治療方法に基づく看護計画を立案しその根拠を説明できる臨床判断力を育成する。 (55 滝口 裕一/1回) がん疾患における代表的疾患の診断と標準治療について、特に、肺がんに焦点を当てて概説する。 | オムニバス方式 |
| | 腫瘍医療ケアコーディネーション | がんまたは終末期の患者の緩和ケアのためのケアコーディネーションの理論と実践を修得する。 (オムニバス方式/全15回) (5 眞嶋 朋子/14回) (3 増島 麻里子/14回) トータルペインを緩和するケアコーディネーション、緩和ケアを必要とする集学的治療を受ける患者のケアコーディネーションの必要性を概説する。また、地域における多職種（訪問看護、医師、薬剤師、介護福祉士等）、がん患者支援団体との協働による患者・家族の支援方法と課題、地域で生活する緩和ケアを受ける患者の支援の現状と課題および解決策の討議を通して、ケアコーディネーションの実践における自己の課題の明確化と解決策を検討する。 (18 石橋 みゆき/1回) 外来と、入院の療養の場における患者の問題、ケアコーディネーションの課題について概説する。 | オムニバス方式 |
| | エンドオブライフケア看護学 | 緩和ケアにおけるエビデンスに基づいた看護援助のための理論と方法を修得する。主に、各学生の看護実践経験と学際的研究アプローチを統合し、臨床現場におけるエンドオブライフケアの向上に貢献する研究および実践能力の育成を意図する。 (オムニバス方式/全15回) (3 増島 麻里子/7回) エンドオブライフケアの概念、がん疾患/非がんのエンドオブライフ、Advance Care Planningのエビデンスと社会実装、臨床事例から考えるエンドオブライフケアについて概説する。また、学生各自が有する臨床経験のなかから、エンドオブライフケアに関連する事例に基づき、臨床倫理的観点からの考察および理解を深化させる。 (18 石橋 みゆき/4回) 高齢者とエンドオブライフケアについて概説する。また、学生各自が有する臨床経験のなかから、エンドオブライフケアに関連する事例に基づき、臨床倫理的観点からの考察および理解を深化させる。 (21 池崎 澄江/5回) 日本のエンドオブライフケア政策について概説する。また、学生各自が有する臨床経験のなかから、エンドオブライフケアに関連する事例に基づき、臨床倫理的観点からの考察および理解を深化させる。 (54 関谷 昇/1回) 政治学の視点から考えるエンドオブライフケアについて概説する。 (58 川瀬 貴之/1回) 法哲学、倫理学の視点から考えるエンドオブライフケアについて概説する。 | オムニバス方式 |

| | | | |
|----------------------|----------|--|---------|
| 専門科目 看護実践学コース | 特定看護実践論Ⅰ | <p>特定看護師として必要な患者利用者の価値を尊重した特定看護の考案・実施に関してその基本的知識と方略を論述し、特定看護実践に必要なリーダーシップについて討議する。</p> <p>1 オリエンテーション（ポートフォリオの作成、学習の進め方、グランドルールなど） 酒井、真嶋、山本、岡田、野崎、雨宮</p> <p>2 特定看護実践の概念化（講義・ワーク） 酒井、山本</p> <p>3 特定看護の役割と必要な実践能力（講義・ワーク） 酒井、雨宮</p> <p>4 特定看護師としての役割開発（講義・ワーク） 酒井、真嶋</p> <p>5 特定看護師としてのリーダーシップ（講義・ワーク） 酒井、野崎</p> <p>6 特定看護の質の評価（プロセスとアウトカム）（講義・ワーク） 酒井、岡田</p> <p>7 特定看護師としてのキャリア発展（講義・ワーク） （コンフォートケア、リカバリーケア、クリティカルケア、ロングタームケアの特定行為科目群をどのように習得し、どのように活用するか） 酒井、真嶋</p> <p>8 学びの共有とまとめ（討議） 酒井、真嶋、山本、岡田、野崎、雨宮</p> <p>（4 岡田、5 真嶋、11 山本、15 酒井、30 野崎、42 雨宮）</p> | オムニバス方式 |
| | 特定看護実践論Ⅱ | <p>患者利用者を尊重し、地域包括ケアを推進できる医療を提供するために特定看護師として必要な医師との協働的パートナーシップおよび他の専門職とのチームのマネジメントに必要な実践能力を論述する。</p> <p>1 オリエンテーション酒井、正木、小宮山、辻村、山崎、佐々木、佐野</p> <p>2 地域包括ケアシステムと特定看護実践の場 酒井、辻村、山崎、</p> <p>3 地域の健康資源の評価と開発 酒井、辻村、佐々木、</p> <p>4 特定看護における地域の健康問題の特徴の分析とヘルスプロモーション （クリティカルケア、リカバリーケア、ロングタームケア、コンフォートケアがどのようにヘルスプロモーションに貢献するか） 酒井、正木、佐野</p> <p>5 患者利用者の健康アウトカムの向上を目指した専門職連携実践 （専門性を理解する方法、目的目標の合意形成、役割に関する対立の解決） 酒井、小宮山、辻村、山崎</p> <p>6 医師との協働的パートナーシップの構築 （臨床推論とアセスメントの統合、治療とケアの統合、共通アウトカムの理解、互いの働き方の理解の促進、プロフェッショナルリーダーの管理） 酒井、正木、辻村</p> <p>7 患者利用者の療養の場の移行のマネジメントと特定看護 酒井、辻村、佐野</p> <p>8 学びの共有とまとめ 酒井、正木、小宮山、辻村、山崎、佐々木、佐野</p> <p>（1 正木、15 酒井、8 小宮山、15 酒井、20 辻村、36 佐野38 山崎、39佐々木）</p> | |

| | | | |
|---|--------------------|---|--|
| <p style="text-align: center;">専門科目</p> <p style="text-align: center;">看護実践学コース</p> | <p>クリティカルケア科目群</p> | <p>クリティカルな状態にある患者の救命及び生命維持を目的とした呼吸、循環の管理および適切な薬剤投与・調節のための手順書の作成、実施、評価、記録、報告に必要な知識、技術、態度を、講義、演習、実習により学ぶ。</p> <p>①循環器関連 一時的ペースメーカーの操作及び管理 一時的ペースメーカーリードの抜去 経皮的な心配補助装置の操作及び管理 大動脈内バルーンパンピングからの離脱を行うときの補助の頻度の調整</p> <p>②心嚢ドレーン管理関連 心嚢ドレーンの抜去</p> <p>③動脈血液ガス分析関連 直接動脈線司法による採血 橈骨動脈ラインの確保</p> <p>④透析管理関連 急性血液浄化両方における血液透析器又は血液透析ろ過機の操作及び管理</p> <p>⑤感染に係る薬剤投与関連 感染兆候があるものに対する薬剤の臨時投与</p> <p>⑥循環動態に係る薬剤投与関連 持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整 持続点滴中のナトリウム、カリウム、クロールの投与量の調整 持続点滴中の降圧剤の投与量の調整 持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整 持続点滴中の利尿剤の投与量の調整</p> <p>以上の内容について、講義（Eラーニング）、演習（ペーパーシミュレーション及びシミュレーター、グループワーク）、実習（カンファレンス参加、見学、指導医の介助、指導の下の実習）を行う。 （5 真嶋 朋子/10回） 講義の理解の確認、演習および実習の振り返りを担当する。 （8 小宮山 正敏/10回） 講義の理解の確認、演習および実習の振り返りを担当する。 （36 佐野 元洋/6回） 講義の理解の確認、演習の振り返りを担当する。</p> | |
| | <p>リハビリケア科目群</p> | <p>侵襲的な治療から回復過程にある患者・利用者の回復促進を目的とした、適切なドレーン、カテーテル管理のための手順書の作成、実施、評価、記録、報告に必要な知識、技術、態度を講義、演習、実習により学ぶ。</p> <p>①呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連 侵襲的陽圧換気の設定の変更 非侵襲的陽圧換気の設定の変更 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整 人工呼吸器からの離脱</p> <p>②胸腔ドレーン管理関連 低圧胸腔内持続吸引器の吸引圧の設定及びその変更 胸腔ドレーンの抜去</p> <p>③腹腔ドレーン管理関連 腹腔ドレーンの抜去（腹腔内に留置された穿刺針の抜針を含む）</p> <p>④栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連 中心静脈カテーテルの抜去</p> <p>⑤創部ドレーン管理関連 創部ドレーンの抜去</p> <p>⑥血糖コントロールに係る薬剤投与関連 インスリンの投与量の調整</p> <p>7皮膚損傷に係る薬剤投与関連 抗癌剤その他の薬剤が血管外に漏出したときのステロイド薬の局所注射及び投与量の調整</p> <p>以上の内容について、講義（Eラーニング）、演習（ペーパーシミュレーション及びシミュレーター、グループワーク）、実習（カンファレンス参加、見学、指導医の介助、指導の下の実習）を行う。 総担当回数 （11 山本 利江/10回） 講義の理解の確認、演習および実習の振り返りを担当する。 （4 岡田 忍/10回） 講義の理解の確認、演習および実習の振り返りを担当する。 （39 佐々木 ちひろ/6回） 講義の理解の確認、演習の振り返りを担当する。</p> | |

| | | | | |
|----------|----------|-------------|---|--|
| 専門科目 | 看護実践学コース | ロングタームケア科目群 | <p>患者利用者が自立を目指して長期的に生活を調整するために必要な特定行為区分別科目群を統括して学び、以下の特定行為が手順書に基づきできるようになる。</p> <p>①呼吸器(長期呼吸療法に係るもの) 関連、②ろう孔管理関連、③栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈カテーテル関連)、④創傷管理関連</p> <p>(15 酒井 郁子/8回) 講義の理解の確認、演習および実習の振り返りを担当する。 (42 雨宮 歩/4回) 講義の理解の確認、演習の振り返りを担当する (38 山崎 由利亜/4回) 講義の理解の確認、演習の振り返りを確認する</p> | |
| | | コンフォートケア科目群 | <p>地域包括ケアシステムのどの場においても実践する必要のある患者利用者の苦痛緩和に関する科目群を統括して論述し、特定行為実施のための手順書の作成、実施、評価、記録、報告に必要な知識、技術、態度を講義、演習、実習により学ぶ。</p> <p>①呼吸器(気道確保に係るもの) 関連 経口用機関チューブ又は経鼻用機関チューブの位置の調整</p> <p>②栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整 脱水症状に対する輸液による補正</p> <p>③術後疼痛管理関連 硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整</p> <p>④精神及び神経症状に係る薬剤投与関連 抗けいれん剤の臨時的投与 抗精神病薬の臨時的投与 抗不安薬の臨時的投与</p> <p>以上の内容について、講義(Eラーニング)、演習(ペーパーシミュレーション及びシミュレーター、グループワーク)、実習(カンファレンス参加、見学、指導医の介助、指導の下の実習)を行う。</p> <p>総担当回数 (1 正木 治恵/6回) 講義の理解の確認、演習および実習の振り返りを担当する。 (20 辻村 真由子/6回) 講義の理解の確認、演習および実習の振り返りを担当する。 (30 野崎 章子/6回) 講義の理解の確認、演習および実習の振り返りを担当する。</p> | |
| 看護学演習・実習 | 看護学コース | 看護研究演習 | <p>看護研究演習においては、学生の修士論文研究について、以下の演習を行う。</p> <p>研究者として現状の課題とその背景を分析する。 研究者として現状の課題を解決するためのリサーチ・クエストionsを明確にする。 研究者としてリサーチ・クエストionsを明らかにする方法を探究する。 研究者として妥当な分析結果を得て適切に考察し、さらに公表することを通じた学術的意見交換をする。</p> <p>(1 正木治恵) 先端実践看護学において、高齢社会で必要となる看護実践の探究に向け、高齢者ケア、慢性疾患看護、文化看護に関する研究課題の設定、研究計画の策定について演習を行う。</p> <p>(2 中村伸枝) 先端実践看護学における、小児糖尿病をもつ子どもと家族の看護、小学生から高校生のQOL、専門看護師の教育や学士の看護実習に関する研究課題の設定、研究計画の策定について演習を行う。</p> <p>(3 増島 麻里子) 先端実践看護学における、がん看護、リンパ浮腫を含む症状マネジメントとケア、アドバンスケアプランニングを含むエンドオブライフケア、医工学との連携によるICTを活用したケアに関連した研究を題材として演習を行う。</p> <p>(4 岡田 忍) 先端実践看護学における、対象者の有する病態の細胞・組織レベルの理解に基づく新たなケア、実験的手法を用いたケアの評価に関連した研究を題材として演習を行う。</p> <p>(5 眞嶋 朋子) 先端実践看護学における、危機的状況にある急性期、終末期患者に関する看護、心臓手術を受ける患者の看護、心臓リハビリテーションを受ける患者の看護、終末期患者および家族への看護に関連した研究を題材として演習を行う。</p> | |

(6 諏訪さゆり)

生活創成看護学における、在宅ケア、訪問看護、高齢者ケア、認知症ケア、WHOの国際生活機能分類ICFを基盤としたケア、在宅介護ロボットシステムを活用したケアに関連した研究を題材として演習を行う。

(7 石丸 美奈)

生活創成看護学における、予防を重視したケア、地域生活支援、地域支援システム（地域包括ケア・地域包括ケアシステム）、地域づくり、社会資源活用・創出等の地域看護/公衆衛生看護に関わる研究を題材として演習を行う。

(8 小宮山 政敏)

生活創成看護学における、人体の構造と機能を基盤とした、健康増進、疾病予防、疾病からの回復に必要なケアの開発やエビデンスの確立に関連した研究を題材として演習を行う。

(9 森 恵美)

生活創成看護学における、妊娠分娩期のヘルスプロモーションケア、親役割移行・獲得へのケア、周産期・産後の母子・夫婦など育成期家族へのケア、女性の健康やリプロダクティブヘルスケアに関連した研究を題材として、エビデンスの検索と抽出、分析・批判的レビュー等の演習を行う。

(10 北池正)

生活創成看護学において、疫学的手法を取り入れ、量的研究方法でエビデンスを産出する研究を題材として演習を行う。例えば、ヘルスプロモーションのプログラム開発、QOL 評価尺度の開発、健康診断の有効性評価などをテーマとする演習を行う。

(11 山本利江)

文化創成看護学において、看護理論の実践への適応、看護技術の映像教材に固有な構造記述カテゴリーの解明、看護職者の専門的思考の形成を促進する教育方法に関連した研究を題材として演習を行う。

(12 中山登志子)

文化創成看護学において、看護基礎教育・看護卒後教育・看護継続教育に関連した研究を題材として演習を行う。

(13 宮崎美砂子)

生活創成看護学における、災害及び健康危機発生時の中長期ケア及び予防戦略にかかわる公衆衛生看護・地域看護に関連した研究を題材として演習を行う。

(14 手島恵)

文化創成看護学における看護管理、特に人的資源の活用・看護管理者の能力開発、看護倫理に関連した研究を題材として演習を行う。

(15 酒井郁子)

生活創成看護学における、高齢者ケアEBP実装システムの開発、長期ケア施設におけるセンサリング技術の開発と実装、長期ケア施設における人材開発および専門職連携教育／実践に関連した研究を題材として演習を行う。

(16 野地有子)

文化創成看護学における、看護管理における看護評価学に関する研究、世界をリードするインバウンド医療展開に向けた看護国際化ガイドライン、Society5.0 地域包括ケアに関連した研究を題材とした演習を行う。

(17 和住淑子)

文化創成看護学を踏まえて、看護実践・看護管理実践・看護教育実践における自身の疑問が発生するもととなった現象とともに記述・分析する演習を通して、看護学の学的方法論を修得する。国内外の既存の学術論文との比較照合を通して、自身の研究疑問を精練させ、当該研究疑問を探究するに相応しい方法を考案し、研究計画を立案する。

(18 石橋みゆき)

先端実践看護学における、退院支援、老人看護学、在宅看護学に関連した研究を題材として演習を行う。

(19 田中 裕二)

生活創成看護学における、高次脳機能障害ケア、意識障害ケア、認知症ケア方法の開発や看護ケア技術の科学的な検証に関連した研究を題材として生理学的なアプローチを用いた演習を行う。

| | | | |
|----------|---------|--|--|
| 看護学コース | | <p>(20 辻村真由子) 生活創成看護学における、訪問看護、地域包括ケア、在宅ケア技術、家族支援、在宅ケア専門職の学習支援に関連した研究を題材として演習を行う。</p> <p>(21 池崎澄江) 生活創成看護学における、地域における医療と介護の連携、地域における病院看護師と訪問看護師の連携、施設高齢者の看護管理、看護職の労働職場環境、に関連した研究を題材として演習を行う。</p> <p>(23 斉藤しのぶ) 文化創生看護学において、看護理論開発、看護の実践方法論の修得過程、看護学の基礎教育課程の政策や制度、慢性腎臓病看護領域に関するケア、看護基本技術教育に関する研究を題材として演習を行う。</p> <p>(24 佐藤奈保) 先端実践看護学における、小児看護、家族看護、疾患や障害をもつ児（者）へのケア、生涯発達の視点を基盤としたケア、子どもと家族をとりまく環境・社会情勢に関する実践、研究を題材とした演習を行う。また、災害と子ども・家族、災害時要配慮者に対する支援に関する実践、研究を題材とした演習を行う。</p> <p>(25 黒田久美子) 先端実践看護学における、セルフケア支援、認知症をあわせもつ慢性疾患患者への支援、ICTを活用した療養支援、地域包括ケアを推進する援助プログラムの開発、外来看護、看護実践の評価方法の開発に関連した研究を題材として演習を行う。</p> <p>(26 銭 淑君) 文化創成看護学における、看護教育政策・看護教育方法の開発、ITツールを駆使する教材の開発、糖尿病生活調整看護支援の開発に関連した研究を題材として演習を行う。</p> <p>(27 井出成美) 文化創成看護学における、専門職連携教育の効果的な方法や評価方法、高齢者の強みを活かした地域での介護予防支援、行政保健師の保健指導技術や役割機能に関連した研究を題材とした演習を行う。</p> <p>(28 杉田由加里) 文化創成看護学における、地域看護におけるマネジメント実践に関する研究、生活習慣病予防に関する看護実践に関連した研究を題材として演習を行う。</p> <p>(31 飯野理恵) 文化創成看護学における、看護管理、人材育成、地域ケアシステムの構築に関連した研究を題材として演習を行う。</p> <p>(42 雨宮 歩) 生活創成看護学における、ケアに活かすための生体計測（歩行・睡眠・活動量・動作など）、糖尿病性足潰瘍予防・ウェルナー症候群の足潰瘍予防・フットケア、（身体拘束を減らすための）看護技術・機器・ケア用品の開発に関連した研究を題材として演習を行う。</p> | |
| 看護実践学コース | 看護管理学演習 | <p>自組織における看護管理上の事例を系統的に検討し、組織理念の具現化と方法論、評価方法を習得し、看護管理について演習する。</p> <p>(6 諏訪さゆり) 生活創成看護管理学における、地域包括ケアシステム、在宅ケア、訪問看護、高齢者ケア、認知症ケア、WHOの国際生活機能分類ICFを基盤としたケア、在宅介護ロボットシステムを活用したケアの管理に関連した課題研究を題材として演習を行う。</p> <p>(7 石丸 美奈) 生活創成看護管理学における、予防を重視したケア、地域生活支援、地域支援システム（地域包括ケア・地域包括ケアシステム）、地域づくり、社会資源活用・創出等の地域看護/公衆衛生看護に関わる研究を題材として演習を行う。</p> <p>(9 森 恵美) 生活創成看護管理学における、妊娠分娩期のヘルスプロモーションケア、親役割移行・獲得へのケア、周産期・産後の母子・夫婦など育成期家族へのケア、女性の健康やリプロダクティブヘルスケアに関連した研究論文を題材とする。大学院生の関心のある課題に応じて論文を探索して、それを読み込み、吟味することを通して、大学院生の関心のある研究課題を明確化して、分析・批判的レビュー等の演習を行う。</p> | |

| | | | |
|----------|----------|--|--|
| 看護学演習・実習 | 看護実践学コース | | <p>(10 北池正) 生活創成看護管理学において疫学的手法を取り入れ、量的研究方法でエビデンスを産出する研究を題材として演習を行う。例えば、ヘルスプロモーションのプログラム開発、QOL 評価尺度の開発、健康診断の有効性評価などをテーマとする演習を行う。</p> <p>(12 中山登志子) 文化創成看護管理学において、看護卒後教育・看護継続教育に関連した課題研究を題材とした演習を行う。</p> <p>(13 宮崎美砂子) 生活創成看護管理学における、災害及び健康危機発生時の公衆衛生看護・地域看護のマネジメント、体制構築及び政策形成に関連した課題研究を題材として演習を行う。</p> <p>(14 手島 恵) 文化創成看護管理学における、看護管理学領域の人材管理、組織開発、管理能力開発に関連した課題研究を題材とした演習を行う。</p> <p>(16 野地有子) 文化創成看護管理学において、看護管理者である院生が、自組織の質的・量的な複合データを用いて組織の問題を検証し、解決にむけた看護学および学際的な科学的方法を実践的に自立して展開できる能力を看護評価学に焦点をあてて演習を行なう。演習方法として、キャップストーン・プロジェクトを採用する。海外提携大学および関連施設における高度実践看護管理者との交流、国際学会での発表等を通して、国際的な視点と多様性に配慮した、波及効果の高い看護ケア提供システムづくりをリードする Change Agent としての能力を修得するよう指導する。</p> <p>(17 和住淑子) 文化創成看護管理学において、自身が看護管理実践上直面した状況を記述し、過程的・構造的に分析・評価する演習を繰り返し、個々の看護職者がその専門性を発揮して組織の使命・理念を実現する上で、自組織にはどのような課題があるのかを特定し、課題解決に向けた実践計画を立案することを演習で指導する。</p> <p>(18 石橋みゆき) 先端実践看護管理学における、退院支援、老人看護学、在宅看護学に関連した研究を題材として演習を行う。</p> <p>(19 田中 裕二) 生活創成看護管理学における、高次脳機能障害ケア、意識障害ケア、認知症ケア方法の開発や看護ケア技術の科学的な検証に関連したケアの管理に関連した課題研究を題材として生理学的な手法を用いた演習を行う。</p> <p>(21 池崎澄江) 生活創成看護管理学における、地域における医療と介護の連携、地域における病院看護師と訪問看護師の連携、施設高齢者の看護管理、看護職の労働職場環境、に関連した研究で管理学的な視点での成果を上げている研究を題材として演習を行う。</p> <p>(23 齊藤しのぶ) 文化創成看護管理学において、看護理論開発、看護の実践方法論の修得過程、看護学の基礎教育課程の政策や制度、慢性腎臓病看護領域に関するケア、看護基本技術教育に関する研究を題材として演習を行う。</p> <p>(25 黒田久美子) 先端実践看護管理学における、看護管理における実践研究方法、地</p> <p>(26 錢 淑君) 文化創成看護管理学における、看護教育政策・看護教育方法の開発、ITツールを駆使する教材の開発、糖尿病生活調整看護支援の開発に関連した研究を題材として演習を行う。</p> <p>(27 井出成美) 文化創成看護管理学における、専門職連携教育の効果的な方法や評価方法、高齢者の強みを活かした地域での介護予防支援、行政保健師の保健指導技術や役割機能に関連した研究を題材とした演習を行う。</p> <p>(31 飯野理恵) 文化創成看護管理学において、サービス利用者の医療・介護ニーズの包括的な充足にもとづく、より安全で安心な地域生活の継続を、効果的・効率的に支援するための看護管理実践および実践方法論の創出に関連した課題研究を題材として演習を行う。</p> |
|----------|----------|--|--|

| | | | | |
|----------|----------|---------------|---|------|
| 看護学演習・実習 | 看護実践学コース | 看護学実習Ⅰ（小児看護学） | <p>乳児から思春期までの小児の多様な診断・治療のプロセスについて理解すると共に、小児のプライマリーケアにおいて、症状のアセスメント技術を修得する。</p> <p>（2 中村 伸枝、24 佐藤奈保、37 仲井 あや、40 中水流 彩）</p> <p>以下の実習を通し、乳児から思春期までの小児の多様な診断・治療のプロセスについて理解すると共に、小児のプライマリーケアにおいて、症状のアセスメント技術を修得できるよう、学生の学びを記録類や面接を通して把握し、指導する。また、学生の学びが深まるよう、医師と調整を行う。</p> <p>小児のプライマリーケアの場における症状のアセスメント <input type="checkbox"/> 小児科のクリニックにおいて、学生は受診した小児の症状のアセスメントを行ったのち、医師による診察の場への同席、診療後の医師の指導を通して、自らの症状のアセスメントを考察する（6例以上） （5日間以上）</p> <p>（55 菱木はるか、60日野もえ子）</p> <p>総合病院の小児科・小児外科外来、病棟において、学生が診察場面への同席、及び診療録から乳児から思春期までの小児の多様な診断・治療のプロセスを学ぶことができるよう指導する（4例以上）。 （5日間以上）</p> | 臨地実習 |
| | | 看護学実習Ⅱ（小児看護学） | <p>小児看護専門看護師のシャドウイングと看護実践を通して、小児看護専門看護師の行う高度実践・倫理・コンサルテーション・コーディネーション・教育・研究の6つの役割を理解すると共に、専門看護師に向けた自らの課題と強みを明確にする。</p> <p>（2 中村 伸枝、24 佐藤奈保、37 仲井 あや、40 中水流 彩）</p> <p>以下の実習を通して、学生が小児専門看護師の6つの役割を学ぶ事ができるよう、記録類及び面接を通して指導を行う。また、学生の専門看護師に向けた自らの課題と強みを内省することを支援し、実習Ⅲに向けた実習目標が明確になるよう指導する。また、学生の学びが深まるよう、専門看護師や看護管理者と調整を行う。</p> <p>小児看護専門看護師のシャドウイングを通して、小児看護専門看護師の行う高度実践・倫理・コンサルテーション・コーディネーション・教育・研究の各役割の実際を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャドウイングに際し、施設の組織分析を行う ・小児看護専門看護師の活動の意図や、効果的に活動するための日々の取り組み（関係性の構築やシステム作りなど）を含め、シャドウイング後にディスカッションすることで学びを深める ・レディネスに応じ、学生は小児看護専門看護師の活動に補助的あるいは主体となり参画して実践・評価を行う <p>専門看護師との討議および看護実践を通じた、自らの課題と強みの明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャドウイングとディスカッション、活動への参画を振り返り、専門看護師に向けた自らの課題と強みを明確にする | 臨地実習 |

| | | | | |
|----------|-----------|---------------|---|------|
| 看護学演習・実習 | 看護学実践学コース | 看護学実習Ⅲ（小児看護学） | <p>複雑な健康問題をもつ小児が、よりよい健康状態を保ち成長発達を遂げられるように、小児とその家族を支援するためのケアとキューアを統合した高度な実践能力（高度実践・倫理・コンサルテーション・コーディネーション・教育・研究の6つの役割）を修得する。</p> <p>（2 中村 伸枝、24 佐藤奈保、37 仲井 あや、40 中水流 彩） 学生が自らのサブスペシャリティを強みに、複雑な健康問題をもつ小児が、よりよい健康状態を保ち成長発達を遂げることを目指して行う高度実践に対し、スーパーバイズを行う。必要に応じて臨地の専門看護師や看護管理者と調整を行う。また、学生の学びを記録類や面接により把握し、高度な実践能力を修得できるよう指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 複雑な看護問題をもつ患児および家族3事例以上に対し継続的なかかわりを持ち、看護を実践する ・ 必要に応じ、入院、退院後の外来あるいは在宅など一連の過程について継続的なかかわりを持ち、施設外で行われるカンファレンスやアウトリーチ活動等にも参加する ・ 患児の病状に関する病態生理学的把握と分析、および患児に適用される治療方法の把握とそれに伴う看護問題の分析を行い、適切な看護実践を実施し評価する ・ 実践をとおして高度な実践技術を修得すると共に、看護 職者への教育やコンサルテーション、他の専門職を含めた調整を実施・評価する ・ 倫理的な問題や葛藤が生じた場合には、患児や家族を擁護するとともに、ケアに関わる一人ひとりの意思や倫理観を尊重し調整する ・ 事例を通してあるいは日々の看護のなかで気づいた課題について分析を行い、看護の質向上のために教育が有効と判断した事象について、対象者のレディネスや状況の分析に基づき、教育的役割を果たす ・ 実習のすべての過程において研究結果や文献等を活用する | 臨地実習 |
| | | 看護学実習Ⅰ（がん看護学） | <p>がん看護専門看護師が所属する部署（病棟、外来、地域連携室等）における役割および、病棟、外来、各種委員会、管理者との連携を含めた実践、コンサルテーション、コーディネーション、倫理調整を学び、自身の学習課題を明確にする。</p> <p>（3 増島 麻里子） がん看護専門看護師の活動の実際から役割機能発揮の理解と高度な看護援助の基盤について指導する。</p> <p>（5 眞嶋 朋子） 特に生存率の低いがんに焦点を当てて、がん看護専門看護師の活動の実際から役割機能発揮の理解と高度な看護援助の基盤について指導する。</p> | |
| | | 看護学実習Ⅱ（がん看護学） | <p>がん治療中で、症状の苦痛を体験している患者に必要な薬物療法の選択方法を、医師の診断、処方、効果判定のプロセスを見学し、医師のもとで判断能力を修得する。また、がん治療中の症状を有する患者の診断・治療・評価の一部を医師・専門看護師のコンサルテーションのもとで行い、苦痛緩和に対する高度な看護実践力を修得する。（2単位：全90時間）</p> <p>（5 眞嶋 朋子/90時間） 卓越した看護実践力の向上を目指した実習計画、実施、省察を促し、がん看護専門看護師としての高度な看護支援方法の修得を促す。</p> <p>（3 増島 麻里子/90時間） 卓越した看護実践力の向上を目指した実習計画、実施、省察を促し、がん看護専門看護師としての高度な看護支援方法の修得を促す。</p> <p>（60 田口奈津子/90時間） 医師の視点から、判断能力発揮のモデルを示し、がん看護専門看護師としての高度な看護支援方法の修得を促す。</p> | |

| | | | | |
|----------|----------|----------------------|--|--|
| | | <p>看護学実習Ⅲ（がん看護学）</p> | <p>外来通院治療の場において複雑な問題をもつがん患者やその家族に対して、理論的枠組みを用いた包括的なアセスメントを行い、看護計画を立案、実施、評価を行うことを通して、がん看護専門看護師としての看護実践を行う。また、がん看護専門看護師として、病棟、外来、地域連携室において実践、コンサルテーション、コーディネート、倫理調整を行い、がん患者の継続的なケアを行うための課題を見出し、解決するための方策を提案する。</p> <p>（3 増島 麻里子） 看護学実習（成人看護学）において、理論的枠組みを用いた包括的なアセスメントおよびがん看護専門看護師の役割機能に基づく高度な看護援助を展開するための実習指導を行う。</p> <p>（5 眞嶋 朋子） 看護学実習（成人看護学）において、特に生存率の低いがんに焦点を当てて、理論的枠組みを用いた包括的なアセスメントおよびがん看護専門看護師の役割機能に基づく高度な看護援助を展開するための実習指導を行う。</p> | |
| 看護学演習・実習 | 看護実践学コース | 看護学演習（小児看護学） | <p>多職種と連携しながら、入院中の小児の遊びのプログラム、トリアージ研修、または、Nurse Exchange Programに参加し、小児看護の高度実践者としての活動を学ぶ。</p> <p>（2 中村 伸枝） 高度実践看護学、看護学演習（小児看護学）における、慢性疾患を有する子どもと家族の看護に関連した研究を題材として演習を行う。</p> <p>（24 佐藤奈保） 高度実践看護学、看護学演習（小児看護学）における疾患や障害をもつ児（者）へのケア、生涯発達の視点を基盤としたケア、子どもと家族をとりまく環境・社会情勢に関する実践、研究を題材とした演習を行う。また、災害と子ども・家族、災害時要配慮者に対する支援に関連した研究を題材として演習の指導を行う。</p> <p>（37 仲井 あや） 高度実践看護学、看護学演習（小児看護学）における、新生児集中ケア、ハイリスク新生児と家族の看護、早産児の成長発達支援、周産期のグローバル・ヘルスに関連した研究を題材として演習の指導を行う。</p> <p>（40 中水流 彩） 高度実践看護学、看護学演習（小児看護学）における、家族看護、周手術期看護、先天性心疾患看護、慢性疾患患児のセルフケアに関連した研究を題材として演習の指導を行う。</p> | |

| | | | |
|----------|---------------|---|---------|
| | 看護学演習 (成人看護学) | <p>1. 緩和ケアの比較的早期～在宅・終末期に移行する患者の特性を理解するとともに、対象者の発達段階に応じた情報支援、社会資源の提供を通じたがん看護専門看護師としての支援方法を修得する。</p> <p>2. 症状緩和が必要とされる患者のアセスメント、症状緩和のための支援技術を修得する。</p> <p>3. さらに事例に基づいて、看護実践のための計画立案方法を修得する。</p> <p>1-2 ライフステージを考慮した個別性の高いがん看護-intergrative patient care, QOL(真嶋)</p> <p>3-4 緩和ケアを受けながら就労するがん患者の情報支援 (技術) (増島)</p> <p>5-6 進行がん患者の入院～在宅移行期の支援ー地域包括ケアセンターにおける支援 (多職種連携コミュニケーション技術) (真嶋)</p> <p>7-8 小児がん患者・家族の支援 (家族の包括的なアセスメントおよびセルフケア支援技術 (増島)</p> <p>9-10 高齢がん患者の支援 (認知機能のアセスメントおよびセルフケア技術) (真嶋)</p> <p>11-12 ゲノム医療を希望する患者への情報支援 (面接・情報提供方法) (真嶋)</p> <p>13-14 がん患者・家族のサポートシステムの運営方法 (増島)</p> <p>15-16 がん患者・家族のサポートシステムの運営の実施 (増島)</p> <p>17-18 集学的がん治療を受ける看護の場における症状緩和の課題と症状マネジメントモデル、EBPガイドライン (真嶋)</p> <p>19-20 疾患別のがん薬物療法、放射線療法を受ける患者の症状アセスメント、セルフマネジメント (事前演習)</p> <p>21-22 がん患者のリハビリテーションのアセスメントとリハビリテーション (真嶋)</p> <p>23-24 がん患者のリハビリテーションの実際 (千葉大学病院における理学療法での技術の演習) (真嶋)</p> <p>25-26 リンパ浮腫の予防または症状緩和のための支援 (増島)</p> <p>27-28 リンパ浮腫外来における症状緩和の方法 (技術) (増島)</p> <p>29-30 上記の疾患の事例に対するアセスメントと計画立案 (増島)</p> <p>(3 増島 麻里子、5 真嶋 朋子)</p> | オムニバス方式 |
| 看護学演習・実習 | 看護実践学コース | <p>特定看護実践を分析し、患者利用者のQOLと組織経営の側面からアウトカムを評価するための指標を明らかにしたうえで手順書の実装計画を検討する。そのうえで、自己の特定看護実践、リーダーシップおよび専門職連携実践を振り返り改善点を論述し、手順書の作成、実装の方法を解説する。</p> <p>(15 酒井 郁子/17回)</p> <p>特定行為研修の概要及び手順書作成実装について解説するとともに、自己の特定看護実践、リーダーシップ専門職連携実践の振り返りのファシリテーションを行う</p> <p>(4 岡田 忍/10回)</p> <p>自己の特定看護実践、リーダーシップ専門職連携実践の振り返りのファシリテーションを行う</p> <p>(11 山本 利江/10回)</p> <p>自己の特定看護実践、リーダーシップ専門職連携実践の振り返りのファシリテーションを行う</p> <p>(8 小宮山 正敏/15回)</p> <p>自己の特定看護実践、リーダーシップ専門職連携実践の振り返りのファシリテーションを行う</p> <p>(1 正木 治恵/10回)</p> <p>自己の特定看護実践、リーダーシップ専門職連携実践の振り返りのファシリテーションを行う</p> <p>(5 真嶋 朋子/16回)</p> <p>手順書の作成と効果評価の方法について解説し、手順書作成支援を行う</p> <p>(20 辻村 真由子/16回)</p> <p>手順書の作成と効果評価の方法について解説し、手順書作成支援を行う</p> <p>(30 野崎 章子/10回)</p> <p>手順書の組織への実装と効果評価の方法について解説し、実装計画立案支援を行う</p> <p>(38 山崎 由利亜/16回)</p> <p>手順書の作成と効果評価の方法について解説し、手順書作成支援を行う</p> <p>(42 雨宮 歩/15回)</p> <p>手順書の作成と効果評価の方法について解説し、手順書作成支援を行う</p> | |

| | | | |
|-----------|----------|----------|--|
| 看護学演習・実習 | 看護実践学コース | 特定看護演習 | <p>特定看護をより患者利用者中心に展開するための方略を論述し、自己の実践の振り返りをもとに、部署への手順書の実装計画に必要な考え方を論述する。</p> <p>(1 正木治恵) コンフォートケア科目群に関連する栄養及び水分管理に係る薬剤投与、精神及び神経症状に係る薬剤投与の観点から、特定看護をより患者利用者中心に展開するための方略を論述し、自己の実践の振り返りをもとに、部署への手順書の実装計画に必要な考え方を論述する。</p> <p>(4 岡田 忍) リハビリケア科目群に関連する創部ドレーン管理、血糖コントロールに係る薬剤投与、皮膚損傷に係る薬剤投与の観点から、特定看護をより患者利用者中心に展開するための方略を論述し、自己の実践の振り返りをもとに、部署への手順書の実装計画に必要な考え方を論述する。</p> <p>(5 眞嶋 朋子) クリティカルケア科目群に関連する循環器、心嚢ドレーン管理、動脈血液ガス分析、透析管理の観点から、特定看護をより患者利用者中心に展開するための方略を論述し、自己の実践の振り返りをもとに、部署への手順書の実装計画に必要な考え方を論述する。</p> <p>(8 小宮山 政敏) クリティカルケア科目群に関連する感染に係る薬剤投与、循環動態に係る薬剤投与の観点から、特定看護をより患者利用者中心に展開するための方略を論述し、自己の実践の振り返りをもとに、部署への手順書の実装計画に必要な考え方を論述する。</p> <p>(11 山本利江) リハビリケア科目群に関連する呼吸器(人工呼吸療法)、②胸腔ドレーン管理、腹腔ドレーン管理、栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル管理)の観点から、特定看護をより患者利用者中心に展開するための方略を論述し、自己の実践の振り返りをもとに、部署への手順書の実装計画に必要な考え方を論述する。</p> <p>(15 酒井郁子) ロングタームケア科目群関連する呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)、栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈カテーテル関連)の観点から、特定看護をより患者利用者中心に展開するための方略を論述し、自己の実践の振り返りをもとに、部署への手順書の実装計画に必要な考え方を論述する。</p> <p>(20 辻村真由子) コンフォートケア科目群に関連する呼吸器(気道確保)、精神及び神経症状に係る薬剤投与に係る観点から、特定看護をより患者利用者中心に展開するための方略を論述し、自己の実践の振り返りをもとに、部署への手順書の実装計画に必要な考え方を論述する。</p> <p>(42 雨宮 歩) ロングタームケア科目群関連するろう孔管理、創傷管理の観点から、特定看護をより患者利用者中心に展開するための方略を論述し、自己の実践の振り返りをもとに、部署への手順書の実装計画に必要な考え方を論述する。</p> |
| 特別研究・課題研究 | | 理論開発特別研究 | <p>学術的な知見を深めることを目的として留学を行い、学生の修士論文研究課題について、主体的に修士論文を作成する</p> <p>(1 正木治恵) 高齢社会において必要となる看護実践の探究に向け、高齢者ケア、慢性疾患看護、文化看護に関連した研究を題材として修士論文の指導を行う。</p> <p>(2 中村伸枝) 先端実践看護学における、健康問題をもつ小児と家族の看護、小学生から高校生のQOL、専門看護師の教育や学士の看護実習に関する研究課題の設定、研究計画の策定に関連した研究を題材として修士論文の指導を行う。</p> <p>(3 増島 麻里子) 先端実践看護学における、がん看護、リンパ浮腫を含む症状マネジメントとケア、アドバンスケアプランニングを含むエンドオブライフケア、医工学との連携によるICTを活用したケアに関連した研究を題材として修士論文の指導を行う。</p> |

(4 岡田 忍)

先端実践看護学における、対象者の有する病態の細胞・組織レベルの理解に基づく新たなケア、実験的手法を用いたケアの評価に関連した研究を題材として修士論文の指導を行う。

(5 眞嶋 朋子)

先端実践看護学における、危機的状況にある急性期、終末期患者に関する看護、心臓手術を受ける患者の看護、心臓リハビリテーションを受ける患者の看護、終末期患者および家族への看護に関連した研究を題材として修士論文の指導を行う。

(6 諏訪さゆり)

生活創成看護学における、在宅ケア、訪問看護、高齢者ケア、認知症ケア、WHOの国際生活機能分類ICFを基盤としたケア、在宅介護ロボットシステムを活用したケアに関連した研究を題材として修士論文の指導を行う。

(7 石丸 美奈)

生活創成看護学における、予防を重視したケア、地域生活支援、地域支援システム（地域包括ケア・地域包括ケアシステム）、地域づくり、社会資源活用・創出等の地域看護/公衆衛生看護に関わる研究を題材として修士論文の指導を行う。

(8 小宮山 政敏)

人体の構造と機能を基盤に、健康増進、疾病予防、疾病からの回復に必要なケアの開発やエビデンスの確立に関連した研究を題材として修士論文の指導を行う。

(9 森 恵美)

生活創成看護学における、妊娠分娩期のヘルスプロモーションケア、親役割移行・獲得へのケア、周産期・産後の母子・夫婦など有期家族へのケア、女性の健康やリプロダクティブヘルスケアに関連した研究を題材として修士論文の指導を行う。

(10 北池正)

生活創成看護学において疫学的手法を取り入れ、量的研究方法でエビデンスを産出する研究を題材として修士論文の指導を行う。例えば、ヘルスプロモーションのプログラム開発、QOL 評価尺度の開発、健康診断の有効性評価などをテーマとする修士論文の指導を行う。

(11 山本利江)

文化創成看護学において、看護理論の実践への適応、看護技術の映像教材に固有な構造記述カテゴリーの解明、看護職者の専門的思考の形成を促進する教育方法に関連した研究を題材として修士論文の指導を行う。

(12 中山登志子)

文化創成看護学において、看護基礎教育・看護卒後教育・看護継続教育に関連した研究を題材として修士論文の指導を行う。

(13 宮崎美砂子)

生活創成看護学における、災害及び健康危機発生時の中長期ケア及び予防戦略にかかわる公衆衛生看護・地域看護に関連した研究を題材として修士論文の指導を行う。

(14 手島恵)

文化創成看護学における看護管理、特に人的資源の活用・看護管理者の能力開発・看護倫理に関連した研究を題材として修士論文の指導を行う。

(15 酒井郁子)

生活創成看護学における、高齢者ケアEBP実装システムの開発、長期ケア施設におけるセンシング技術の開発と実装、長期ケア施設における人材開発および専門職連携教育/実践に関連した研究を題材として修士論文の指導を行う。

(16 野地有子)

文化創成看護学における、看護管理における看護評価学に関する研究、世界をリードするインバウンド医療展開に向けた看護国際化ガイドライン、Society5.0 地域包括ケアに関連した研究を題材とした修士論文の指導を行う。

(17 和住淑子)

文化創成看護学において、学生が倫理審査を受審した後、演習で立案した研究計画を実行することを指導する。得られた結果を、看護学一般に照らして学的位置づけをし、一連のプロセスを修士論文としてまとめることを指導する。

(19 田中 裕二)

生活創成看護学における、高次脳機能障害ケア、意識障害ケア、認知症ケア方法の開発や看護ケア技術の科学的な検証に関連した研究を題材として生理学的な手法を用いた修士論文の指導を行う。

(20 辻村真由子)

生活創成看護学における、訪問看護、地域包括ケア、在宅ケア技術、家族支援、在宅ケア専門職の学習支援に関連した研究を題材として修士論文の指導を行う。

(21 池崎澄江)

生活創成看護学における、地域における医療と介護の連携、地域における病院看護師と訪問看護師の連携、施設高齢者の看護管理、看護職の労働職場環境、に関連した研究を題材として修士論文の指導を行う。

(23 斉藤しのぶ)

文化創生看護学において、看護理論開発、看護の実践方法論の修得過程、看護学の基礎教育課程の政策や制度、慢性腎臓病看護領域に関するケア、看護基本技術教育に関する研究を題材として修士論文の指導を行う。

(24 佐藤奈保)

先端実践看護学における、小児看護、家族看護、疾患や障害をもつ児（者）へのケア、生涯発達の視点を基盤としたケア、多様な社会的状況・環境にある子どもと家族に対するケアに関連した研究を題材として修士論文の指導を行う。また、災害と子ども・家族、災害時要配慮者に対する支援に関連した研究を題材としての修士論文の指導を行う。

(25 黒田久美子)

先端実践看護学における、セルフケア支援、認知症を合わせもつ慢性疾患患者への支援、ICTを活用した療養支援、地域包括ケアを推進する援助プログラムの開発、外来看護、看護実践の評価方法の開発に関連した研究を題材として修士論文の指導を行う。

(26 錢 淑君)

文化創成看護学における、看護教育政策・看護教育方法の開発、ITツールを駆使する教材の開発、糖尿病生活調整看護支援の開発に関連した研究を題材として修士論文の指導を行う。

(27 井出成美)

文化創成看護学における、専門職連携教育の効果的な方法や評価方法、高齢者の強みを活かした地域での介護予防支援、行政保健師の保健指導技術や役割機能に関連した研究を題材とした修士論文の指導を行う。

(28 杉田由加里)

文化創成看護学における、地域看護におけるマネジメント実践に関する研究、生活習慣病予防に関する看護実践に関連した研究を題材として修士論文の指導を行う。

(31 飯野理恵)

文化創成看護学における、看護管理、人材育成、地域ケアシステムの構築に関連した研究を題材として修士論文の指導を行う。

(42 雨宮 歩)

生活創成看護学における、ケアに活かすための生体計測（歩行・睡眠・活動量・動作など）、糖尿病性足潰瘍予防・ウェルナー症候群の足潰瘍予防・フットケア、（身体拘束を減らすための）看護技術・機器・ケア用品の開発に関連した研究を題材として修士論文の指導を行う。

| | | | |
|--------------------------------------|-----------------|---|-----------|
| <p>特別 研究 ・ 課題 研究</p> | <p>看護管理課題研究</p> | <p>自組織の現状分析から看護管理上の課題を明らかにし、解決のための方策を立案し、実施、評価し、自己の看護管理実践の意味づけを行い、報告する。なお、学術的な知見を深めることを目的として留学を行う。</p> <p>(6 諏訪さゆり) 生活創成看護管理学における、地域包括ケアシステム、在宅ケア、訪問看護、高齢者ケア、認知症ケア、WHOの国際生活機能分類ICFを基盤としたケア、在宅介護ロボットシステムを活用したケアの管理に関連した研究を題材として課題研究の指導を行う。</p> <p>(7 石丸 美奈) 生活創成看護管理学における、予防を重視したケア、地域生活支援、地域支援システム（地域包括ケア・地域包括ケアシステム）、地域づくり、社会資源活用・創出等の地域看護/公衆衛生看護に関わる課題研究を題材として課題研究の指導を行う。</p> <p>(9 森 恵美) 生活創成看護管理学における、妊娠分娩期のヘルスプロモーションケア、親役割移行・獲得へのケア、周産期・産後の母子・夫婦など育成期家族へのケア、女性の健康やリプロダクティブヘルスケアに関連した、大学院生の関心のある看護管理上の研究課題について研究指導を行う。</p> <p>(10 北池正) 生活創成看護管理学において疫学的手法を取り入れ、量的研究方法でエビデンスを産出に寄与する課題研究の指導を行う。例えば、ヘルスプロモーションのプログラム、QOL 評価尺度、健康診断の有効性評価などに関連する指導を行う。</p> <p>(12 中山登志子) 文化創成看護管理学において、看護卒後教育・看護継続教育に関連した看護管理に関連する課題研究について指導を行う。</p> <p>(13 宮崎美砂子) 生活創成看護管理学における、災害及び健康危機発生時の中長期ケア及び予防戦略にかかわる公衆衛生看護・地域看護のマネジメント、体制構築及び政策形成に関連した研究を題材として課題研究の指導を行う。</p> <p>(14 手島 恵) 文化創成看護管理学における、看護管理学領域の人材管理、組織開発、管理能力開発に関連した研究を題材とした課題研究の指導を行う。</p> <p>(16 野地有子) 文化創成看護管理学において、看護管理学演習で実施した自組織の分析と評価を発展させ、文献検討を踏まえた研究計画書について倫理審査のプロセスを通して吟味する。看護管理者である院生の自組織における看護管理に関連した研究を題材として、理論と実践を往還する課題研究の指導を行なう。</p> <p>(17 和住淑子) 文化創成看護管理学において、演習で立案した実践計画を、自身の所属施設において、実行する。実行途上で発生した出来事については、都度その状況を記述・分析・評価し、必要に応じて、計画を修正する。最終的に、その一連のプロセスを概観して論文として報告し、看護の専門性の発揮の観点から、自身の実践の意義について論述する。</p> <p>(18 石橋みゆき) 先端実践看護管理学における、退院支援、老人看護学、在宅看護学に関連した研究を題材として課題研究の指導を行う。</p> <p>(19 田中 裕二) 生活創成看護管理学における、高次脳機能障害ケア、意識障害ケア、認知症ケア方法の開発や看護ケア技術の科学的な検証に関連したケアの管理に関連した研究を題材として生理学的な手法を用いた課題研究の指導を行う。</p> <p>(21 池崎澄江) 生活創成看護管理学における、地域における医療と介護の連携、地域における病院看護師と訪問看護師の連携、施設高齢者の看護管理、看護職の労働職場環境、に関連した研究を題材に自施設の問題点を改善する、解決するためのプロジェクト研究の指導を行う。</p> | <p>研究</p> |
|--------------------------------------|-----------------|---|-----------|

| | | | |
|-----------|----------|---|--|
| | | <p>(23 齊藤しのぶ) 文化創生看護管理学において、看護理論開発、看護の実践方法論の修得過程、看護学の基礎教育課程の政策や制度、慢性腎臓病看護領域に関するケア、看護基本技術教育に関する看護管理について課題研究の指導を行う。</p> <p>(25 黒田久美子) 先端実践看護管理学における、看護管理における実践研究方法、地域包括ケア推進に向けた支援連携・看護職教育、看護管理におけるICT活用に関連した研究を題材として課題研究の指導を行う。</p> <p>(26 錢 淑君) 文化創成看護管理学における、看護教育政策・看護教育方法の開発、ITツールを駆使する教材の開発、糖尿病生活調整看護支援の開発に関連した研究を題材として課題研究の指導を行う。</p> <p>(27 井出成美) 文化創成看護管理学における、専門職連携教育の効果的な方法や評価方法、高齢者の強みを活かした地域での介護予防支援、行政保健師の保健指導技術や役割機能に関連した研究を題材とした課題研究の指導を行う。</p> <p>(31 飯野理恵) 文化創成看護管理学において、サービス利用者の医療・介護ニーズの包括的な充足にもとづく、より安全で安心な地域生活の継続を、効果的・効率的に支援するための看護管理実践および実践方法論の創出に関連した課題研究の指導を行う。</p> | |
| 特別研究・課題研究 | 専門看護特別研究 | <p>小児看護に関わる高度実践の中で生じた課題について、講義・演習・実習を通して研究課題を明確化し、適切な方法を用いて研究計画の立案・実施・論文作成を行う。</p> <p>同様に、がん看護に関わる高度実践の中で生じた課題について、講義・演習・実習を通して研究課題を明確化し、適切な方法を用いて研究計画の立案・実施・論文作成を行う。</p> <p>(2 中村 伸枝) 高度実践看護学における、学際的な知見を深めるための留学、慢性疾患をもつ子どもと家族の看護、小学生から高校生のQOLに関する研究課題を題材とした修士論文の指導を行う。</p> <p>(3 増島 麻里子) 高度実践看護学における、学際的な知見を深めることを目的とした留学、および、がん看護専門領域の研究課題を題材とした修士論文の指導を行う。</p> <p>(5 眞嶋 朋子) 高度実践看護学における、学際的な知見を深めることを目的とした留学、および、生存率の低いがん看護専門領域の研究課題を題材とした修士論文の指導を行う。</p> <p>(24 佐藤奈保) 高度実践看護学における小児看護実践において、遭遇する複雑な事象、問題に対し、関連する知識、理論ならびにエビデンスの活用による多面的な分析を通して、質の高い看護支援の考案を目指す研究を題材に修士論文の指導を行う。</p> | |

| | | | |
|------------------|-----------------|---|--|
| <p>特別研究・課題研究</p> | <p>特定看護課題研究</p> | <p>地域包括ケアシステムにおける自部署の役割と使命に基づき、社会的意義の高い課題を取り上げ、解決計画を立案・実施し、学術知見をもとにその成果を検証し、地域包括ケアの発展に資する考察を行う。</p> <p>(1 正木治恵) コンフォートケア科目群に関連する栄養及び水分管理に係る薬剤投与、精神及び神経症状に係る薬剤投与の観点から、地域包括ケアシステムにおける自部署の役割と使命に基づき、社会的意義の高い課題を取り上げ、解決計画を立案・実施し、学術知見をもとにその成果を検証し、地域包括ケアの発展に資する考察を行う。</p> <p>(4 岡田 忍) リハビリケア科目群に関連する創部ドレーン管理、血糖コントロールに係る薬剤投与、皮膚損傷に係る薬剤投与の観点から、地域包括ケアシステムにおける自部署の役割と使命に基づき、社会的意義の高い課題を取り上げ、解決計画を立案・実施し、学術知見をもとにその成果を検証し、地域包括ケアの発展に資する考察を行う。</p> <p>(5 眞嶋 朋子) クリティカルケア科目群に関連する循環器、心臓ドレーン管理、動脈血液ガス分析、透析管理の観点から、地域包括ケアシステムにおける自部署の役割と使命に基づき、社会的意義の高い課題を取り上げ、解決計画を立案・実施し、学術知見をもとにその成果を検証し、地域包括ケアの発展に資する考察を行う。</p> <p>(8 小宮山 政敏) クリティカルケア科目群に関連する感染に係る薬剤投与、循環動態に係る薬剤投与の観点から、地域包括ケアシステムにおける自部署の役割と使命に基づき、社会的意義の高い課題を取り上げ、解決計画を立案・実施し、学術知見をもとにその成果を検証し、地域包括ケアの発展に資する考察を行う。</p> <p>(11 山本利江) リハビリケア科目群に関連する呼吸器(人工呼吸療法)、②胸腔ドレーン管理、腹腔ドレーン管理、栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル管理)の観点から、地域包括ケアシステムにおける自部署の役割と使命に基づき、社会的意義の高い課題を取り上げ、解決計画を立案・実施し、学術知見をもとにその成果を検証し、地域包括ケアの発展に資する考察を行う。</p> <p>(15 酒井郁子) ロングタームケア科目群関連する呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)、栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈カテーテル関連)の観点から、地域包括ケアシステムにおける自部署の役割と使命に基づき、社会的意義の高い課題を取り上げ、解決計画を立案・実施し、学術知見をもとにその成果を検証し、地域包括ケアの発展に資する考察を行う。</p> <p>(20 辻村真由子) コンフォートケア科目群に関連する呼吸器(気道確保)に係るもの観点から、地域包括ケアシステムの構成要素である自部署の役割と使命に基づき、社会的意義の高い在宅ケアに関する課題を取り上げ、解決計画を立案・実施し、学術知見をもとにその成果を検証し、地域包括ケアの発展に資する考察を行う。</p> <p>(42 雨宮 歩) ロングタームケア科目群関連するろう孔管理、創傷管理の観点から、地域包括ケアシステムにおける自部署の役割と使命に基づき、社会的意義の高い課題を取り上げ、解決計画を立案・実施し、学術知見をもとにその成果を検証し、地域包括ケアの発展に資する考察を行う。</p> | |
|------------------|-----------------|---|--|

| | | | | |
|-------------|--------------------------------------|---|--|---------|
| 国際 プログラム | E l e c t i v e | Theoretical Bases for Nursing Education | This course provides basic knowledge of nursing theories to help students form a theoretical basis of nursing education. Through this course, students will acquire basic knowledge to think based on nursing theories about the nursing faculty's roles and responsibilities, teaching and learning strategies, educational program evaluation, and the evaluation and development of curricula. この授業では、学生が看護学教育の理論的基盤を獲得できるよう、看護理論に関する基礎的知識を提供します。この授業を通して、学生は、教員の役割と責任、教授学習方略、教育プログラム評価、カリキュラムの評価と開発について、看護理論に基づいて考えるための基本的な知識を修得します。 (17 和住淑子/15回) | |
| | | Community health nursing administration | This course is designed to facilitate advanced community health nursing administration(CHNA). The course covers latest topics on the use of nursing leadership to maintain and promote citizens' health in a complicated health care system. 1 Orientation Prof.Dr. Noji,Prof.Dr. Ishimaru 2 Caring for Populations The context for CHNA Prof.Dr. Noji 3-4 Caring for Populations Theoretical Foundations for CHNA Prof.Dr. Noji 5-6 Caring for Populations Nursing Processes in CHNA Prof.Dr. Noji 7-8 Caring for Populations Program Evaluation in CHNA Prof.Dr. Noji 9-10 CBPR(chapter1) Prof.Dr. Ishimaru 11-12 CBPR(chapter12) Prof.Dr. Ishimaru 13-14 CBPR(hchapter5) Prof.Dr. Ishimaru 15-16 Wrap up presentation Prof.Dr. Noji,Prof.Dr. Ishimaru (16 野地 有子/ 6回) 大学院におけるアドバンスド地域看護の理論と実際およびリーダーシップを発揮できるための地域看護管理学について教授する。 (7 石丸 美奈/5回) 地域を基盤とした参加型研究 (CBPR)について、国内外の事例を参考に論述し、地域看護学の質の高い研究および実践をリードする能力について教授する。 | オムニバス方式 |
| | | Issues and Trends in Nursing | 日本の医療・疾患の現況と動向および看護職としての活動を理解し、自国の現況と比較することを通して、自国における今後の看護実践の課題と展望、変革のための方略について考究する。 (オムニバス方式/全15回) (3 増島 麻里子/8回) がん看護領域における現状を概説し概説し、大学院生の自国における今後の看護実践の課題と展望などに関わる洞察を深める。 (20 辻村 真由子/2回) 訪問看護領域における現状を概説し概説し、大学院生の自国における今後の看護実践の課題と展望などに関わる洞察を深める。 (28 杉田 由加里/7回) 生活習慣病としての非感染性疾患とライフスタイルについて日本の現況と看護職の活動を概説し、大学院生の自国における今後の看護実践の課題と展望などに関わる洞察を深める。 (33 今村 恵美子/1回) 日本および世界の高齢者におけるSpiritualityと宗教観について概説し、大学院生の自国における今後の看護実践の課題と展望などに関わる洞察を深める。 | オムニバス方式 |

| | | | | |
|-------------|---|---------------------------------------|--|--|
| 国際 プログラム | E l e c t i v e | Special Topics in Nursing Research | This course focuses on and takes a close look at specific aspects of nursing research and current topics on research methodologies and designs, such as translational research, participatory research, case study approach. Lectures on scholarly writing and publication and grant proposal writing are also provided. (全8回 講義、学生による発表・討議) (4 岡田 忍/15回) | |
| | | Independent Study in Nursing | This course provides students with opportunities for detailed and thorough study on topics of which they want to intensively deepen knowledge in their selected area according to individual needs. The topics and methods of study are decided by the students and supervisor prior to registration. The objectives and progress of the study are evaluated by the supervisor and the students through periodic guidance. (全8回 講義、演習) (指導教員 1 正木 治恵, 3 増島 麻里子, 4 岡田 忍, 5 眞嶋 朋子, 6 諏訪 さゆり, 7 石丸 美奈/8回) | |
| | G r a d u a t e S e m i n a r | Advanced Nursing Research | 概要 : This course provides skills and knowledge of the principles and methods of nursing research. Through this course, students will be able to acquire basic skills to comprehend, evaluate, and conduct nursing research. The content of this course will include research process, design, data collection and data analysis in quantitative and qualitative research as well as ethics in nursing research. (全15回、e-learning教材による反転授業、学生による発表・討議と講評) Course Orientation: Introductions - faculty and students. Review of syllabus and assignments (4 岡田 忍、9 森 恵美、16 野地 有子、21 池崎 澄江、24 佐藤 奈保、26 錢 淑君 /1回) Library Technology: PubMed, NCBI, and EndNoteを使用した文献検索・文献整理と保存 (9 森 恵美/1回) Ethics in Research: Protection of human subjects, animals; Institutional review of research (16 野地 有子/1回) Research Questions: Clarifying a research problem and purpose Review of relevant literature (24 佐藤 奈保/1回) Research Designs: Quantitative Methods (21 池崎 澄江/1回) Research Designs: Qualitative Methods (26 錢 淑君) Samples & Sampling: Methods for selecting research subjects (16 野地 有子/1回) Instrumentation: Principles of Measurement (21 池崎 澄江/1回) Instruments: Demonstrations (21 池崎 澄江/1回) Research Critique (26 錢 淑君 /1回、9 森 恵美/2回) Evidence from Research : Creating and evaluating Clinical Guidelines (24 佐藤 奈保/1回) Writing proposal: Writing research proposals and IRB (4 岡田 忍/1回) Wrap up: 質疑応答と総括 4 岡田 忍、9 森 恵美、16 野地 有子、21 池崎 澄江、24 佐藤 奈保、26 錢 淑君 /1回) 総担当回数 (4 岡田 忍/3回、9 森 恵美/5回、16 野地 有子/4回、21 池崎 澄江/5回、24 佐藤 奈保/4回、26 錢 淑君/4回) | |

| | | | | |
|---------|------------------|---|--|--|
| 国際プログラム | Graduate Seminar | Nursing I | <p>This course helps students lay a foundation for advanced nursing practice to produce best practices and outcomes in a multidisciplinary health care delivery system. Students will learn knowledge and skills to improve health outcomes, as well as methods to enhance and conduct evidence-based specialty practice. The course puts the main emphasis on the integration, evaluation and application of evidence-based nursing practice to provide quality care. この授業では、多職種間協働のヘルスケア提供システムにおける最良の実践とアウトカムを目指し得高度な看護実践を提供できる基盤をつくります。学生はヘルス・アウトカムの改善のための知識、技術、ならびに、根拠に基づいた専門的実践の向上・遂行の方法を習得します。主眼点は良質のケアのための根拠に基づいた看護実践の統合・評価・適用に置かれます。</p> <p>(3 増島 麻里子/15回, 4 岡田 忍/15回, 5 眞嶋 朋子/15回, 7 石丸 美奈/15回)</p> | |
| | | Nursing II | <p>This course facilitates students' understanding of the development of nursing theories and its role in the advancement of nursing as a discipline. The influence and implications of various nursing models and paradigms and the conceptualization of nursing practice on the development and structure of nursing science will be explored. この授業は、看護における理論の発展と、それが学問としての看護の発展において果たした役割についての理解を促進します。看護学の発展と構造における様々な看護モデル、パラダイム、看護実践の概念化の影響を探求します。</p> <p>(3 増島 麻里子/15回, 4 岡田 忍/15回, 5 眞嶋 朋子/15回, 7 石丸 美奈/15回)</p> | |
| | | Graduate Seminar I (Cultural Nursing Studies) | <p>This course aims to facilitate students' adaptation to a different socio-cultural environment and increase their awareness of and sensitivity to the sociocultural environment surrounding clients and its influence on clients' health and nursing care. The course also provides students with opportunities to apply theories, concepts and skills in transcultural nursing care. この授業は、学生の異なる社会文化的環境への移行を促すとともに、クライアントを取り巻く社会文化的環境および社会文化的環境がクライアントの健康と看護ケアに及ぼす影響についての学生の気づきと感受性を高めることを目指しています。またこの授業は、学生に文化を通じた看護での理論・概念・技術を適用する機会を与えます。</p> <p>(4 岡田 忍/15回)</p> | |

| | | | | |
|---------------------|---|---------------------|--|--|
| 国際 プロ グラ ム | G r a d u a t e S e m i n a r | Graduate Seminar II | <p>This course provides an academic environment for students to reflect on their skills and knowledge in their specialization area of nursing. Students are expected to systematically organize and present cases, analyze their practices, facilitate discussions, and indicate appropriate sources.</p> <p>この授業では、専攻の看護領域での、自身の技術と知識を内省するための学術的 環境を提供します。学生には、ケースの系統立てた整理・発表、自身の実践の分析、 ディスカッションの促進、適切な出典の提示が求められます。</p> <p>(3 増島 麻里子) がん看護、リンパ浮腫を含む症状マネジメントとケア、アドバンスケアプランニングを含むエンドオブライフケア、医工学との連携によるICTを活用したケアに関連した研究を題材として演習を行う。</p> <p>(4 岡田 忍) 対象者の有する病態の細胞・組織レベルの理解に基づく新たなケア、実験的手法を用いたケアの評価に関連した研究を題材として演習を行う。</p> <p>(5 眞嶋 朋子) 危機的状況にある急性期、終末期患者に関する看護、心臓手術を受ける患者の看護、心臓リハビリテーションを受ける患者の看護、終末期患者および家族への看護に関連した研究を題材として演習を行う。</p> <p>(7 石丸 美奈) 予防を重視したケア、地域生活支援、地域支援システム（地域包括ケア・地域包括ケアシステム）、地域づくり、社会資源活用・創出等の地域看護/公衆衛生看護に関わる研究を題材として演習を行う。</p> | |
| | M a s t e r , T h e s i s | Master' s Thesis | <p>A master' s thesis provides an intensive scholarly experience to formally conduct in-depth research activity. On the basis of basic research methodologies, statistics, and nursing theory development, students develop, critique and refine their research plans and implement research processes through peer reviews, support and faculty guidance. The course provides opportunities for presentations, positive critique and exchange of scholarly opinions regarding ongoing cross-disciplinary research and related methodologies. Students complete their thesis under the guidance of a supervisor and the examination committee. 修士論文は正式に綿密な研究活動を行う集中的・学術的経験となります。基礎的 な研究方法論、統計、看護理論開発を土台にし、学生は仲間との議論・サポートと、教員の指導という環境の中で、研究計画を展開・批評・洗練させ、研究プロセスを 実行します。授業では、継続中の学術横断的な研究および関連の方法論について、 プレゼンテーション、積極的批評、学術的意見交換の場を与えます。論文は指導教 員と審査委員会の指導のもと完成されます。</p> <p>(3 増島 麻里子) がん看護、リンパ浮腫を含む症状マネジメントとケア、アドバンスケアプランニングを含むエンドオブライフケア、医工学との連携によるICTを活用したケアに関連した研究を題材として修士論文の指導を行う。</p> <p>(4 岡田 忍) 対象者の有する病態の細胞・組織レベルの理解に基づく新たなケア、実験的手法を用いたケアの評価に関連した研究を題材として修士論文の指導を行う。</p> <p>(5 眞嶋 朋子) 危機的状況にある急性期、終末期患者に関する看護、心臓手術を受ける患者の看護、心臓リハビリテーションを受ける患者の看護、終末期患者および家族への看護に関連した研究を題材として修士論文の指導を行う。</p> | |

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

| 授 業 科 目 の 概 要 | | | |
|---------------------|------------------|--|---------|
| (看護学研究科看護学専攻博士後期課程) | | | |
| 科目区分 | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考 |
| 共通基盤科目 | 学際研究Ⅰ（導入） | 学際研究を推進する看護学研究者としての基礎的能力の強化を意図し、他専門分野の研究者と共に学際研究を行なうための基礎知識とスキルを修得する。（オムニバス方式/全8回） （16 野地有子/3回） 学際研究の意義と戦略、発表とまとめ （3 増島 麻里子/2回） 学際研究の戦略とスキル、発表とまとめ （6 諏訪 さゆり/2回） 学際研究の実際（認知症ケアに関する研究他）、発表とまとめ （39 雨宮 歩/2回） 学際研究の実際（特許取得開発事例他）、発表とまとめ | オムニバス方式 |
| | 看護革新力の展開 | 人類の未来を見据えて、変化する社会を展望し、新たな看護学の立場と役割を主体的に創造し担うための革新力を自覚し、看護学の立場からの課題解決について考究する。 （オムニバス方式/全8回） （5 眞嶋朋子/1回） 看護（科学）におけるパラダイムシフト ・社会変革とは ・看護学の成立過程とパラダイムシフト （17 和住淑子/1回） 看護（科学）におけるパラダイムシフトとその要件 ・政策領域（マクロ） （23 斉藤しのぶ・40鈴木悟子/2回） 看護（科学）におけるパラダイムシフトとその要件 ・地域、災害（メゾ） ・医療、看護、介護（ミクロ） （5眞嶋朋子、17和住淑子、23斉藤しのぶ、40鈴木悟子/4回） ・各自の専門領域に基づき、実践、研究、教育、政策の課題について検討 ・次世代に求められる看護実践・教育・研究・政策について共有 ・社会にむけてどのような情報を発信していく必要があるか、そのために自らがどのような役割を担うか、役割遂行に必要な要件、修得すべき能力について共有する。（グループワーク） 総担当回数（5眞嶋朋子/5回、17和住淑子/5回、23斉藤しのぶ/6回、40鈴木悟子/6回） | オムニバス方式 |
| | Academic Writing | A research proposal is intended to convince others that your research is worth investing time and money. A good research proposal should contain evidence that you are knowledgeable and qualified to carry out the project to a successful conclusion. In this course, you will learn how to present past findings and locate your project within the body of knowledge, demonstrate your grasp of a sound methodology, and assess clearly the originality or importance of your research outcomes. （15酒井郁子/8回 43カズノブ・ダビッド/8回） | 共同 |

| | | | |
|--------|-------------------|--|---------|
| 共通基盤科目 | 学際研究Ⅱ（発展） | 看護学研究者の立場で人間中心のSociety 5.0の実現に向けた学際的研究の推進に向けて、医療・介護領域においてICTやAIをはじめとするイノベーションを活用する学際研究活動に必要な能力を学修する。 （16 野地有子/1回） 発表まとめ （6 諏訪 さゆり/5回） Society5.0におけるイノベーションの理解と活用、発表まとめ （3 増島 麻里子/2回） Society5.0におけるイノベーションの理解と活用、発表まとめ （39 雨宮 歩/3回） 学際研究の研究計画、発表まとめ | オムニバス方式 |
| | 看護イノベーション特論 | 変化する社会を展望し、看護学の立場と役割に関するパラダイムシフトにもとづいて、新しい看護サービスを具現化するその方法を創造的に考究する。 （25 黒田 久美子/4回）新たなサービスシーズを見出す演習、看護援助方法開発演習 （14 手島 恵/2回）概念モデル演習 （17 和住 淑子/2回）概念モデル演習 （5 眞嶋 朋子/2回）看護援助方法開発演習 （36 山崎 由利亜/2回）看護援助方法開発演習 （41 湯本 晶代/2回）新たなサービスシーズを見出す演習 （25 黒田 久美子（外部講師1名）/1回）：講義「新しい看護サービスの具現化のプロセスと要件」 | オムニバス方式 |
| | グローバル演習 | 海外の協定校等の教育・研究機関が実施する看護実践プログラムへの参加あるいは日本国内において、異文化を背景とする人々を対象として実施されるプログラムに参加し、自身が専門とする看護領域において、多様な社会経済文化的背景を有する人々を対象とし、global/localな俯瞰・複合的視点にもとづく看護実践能力を涵養する。 （1 正木治恵/15回）（30 野崎章子/15回）（22 岩田裕子/15回） （16 野地有子/15回） 海外あるいは国内の該当プログラムの立案・調整を行い、学生の自主的な履修を支援する。 | 集中 |
| | Systematic Review | システマティックレビューにおける問いの立て方、プロトコルの作成、論文の質の批判的検証、エビデンスの統合の一連の過程について、基本的スキルを修得する。 （オムニバス方式/全8回） （15 酒井 郁子/2回） システマティックレビューの考え方とその必要性、EBP(Evidence Based Practice)との関連について解説する。学生によるプロトコルのプレゼンテーションへの講評を行う。 （20 辻村 真由子/4回） 研究疑問を解明するための問いの立て方、システマティックレビューのプロトコルの作成方法を解説する。量的研究の論文の質の批判的検証とエビデンスの統合の方法について解説する。学生によるプロトコルのプレゼンテーションへの講評を行う。 （24 佐藤 奈保/3回） 量的研究の論文の質の批判的検証とエビデンスの統合の方法について解説する。学生によるプロトコルのプレゼンテーションへの講評を行う。 （13 宮崎 美砂子/3回） 質的研究の論文の質の批判的検証とエビデンスの統合の方法について解説する。学生によるプロトコルのプレゼンテーションへの講評を行う。 （31 飯野 理恵/3回） 質的研究の論文の質の批判的検証とエビデンスの統合の方法について解説する。学生によるプロトコルのプレゼンテーションへの講評を行う。 | オムニバス方式 |

| | | | |
|---|-----------|--|---------|
| | 先端実践看護学特論 | 現代社会における高度な看護実践に資する新領域の看護の創造に向けて、博士論文研究を推進するために関連する理論と研究方法について国内外の研究動向も踏まえて論述する。 (学生によるプレゼンテーションの後、討議と講評) (18 石橋 みゆき/15回、4 岡田 忍/15回、2 中村 伸枝/15回、5 眞嶋 朋子/15回、3 増島 麻里子/15回、1 正木 治恵/15回、24 佐藤 奈保/15回、25 黒田 久美子/15回、29 小川 俊子/15回、35 仲井 あや/15回、38 中水流 彩/15回、33 楠 潤子/15回、36 山崎 由利亜/15回、37 佐々木 ちひろ/15回、34 佐野 元洋/15回) | |
| 専 門 科 目 | 生活創成看護学特論 | 人々の生活の安寧および質の向上に貢献するための創造的な生活支援および健康増進を推進する看護の観点から、生活創成看護学に関連する理論と研究方法について国内外の研究動向も踏まえて論述する。 (学生によるプレゼンテーションの後、討議と講評) (7 石丸 美奈/1回) オリエンテーション (7 石丸 美奈/7回、10 北池正/7回、9 森恵美/7回、13 宮崎美砂子/7回) 主にヘルスプロモーション、予防、エンパワメントなどの観点から指導する。 (7 石丸美奈7/回、15 酒井郁子/7回、精神看護学教授/7回、8 小宮山政敏/7回、6 諏訪さゆり/7回) ノーマライゼーション、リハビリテーション、ロングタームケアなどの観点から指導する。 総担当回数(6 諏訪さゆり/7回、7 石丸 美奈/15回、8 小宮山政敏/7回、10 北池正/7回、9 森恵美/7回、13 宮崎美砂子/7回、15 酒井郁子/7回、精神看護学教授/7回) | オムニバス方式 |
| | 文化創成看護学特論 | 文化創成看護学を構成する各専門領域の看護実践や教育に関連する理論と研究方法について国内外の研究動向も踏まえて論述する。 (学生によるプレゼンテーションの後、討議と講評) (11 山本利江/15回、12 中山登志子/15回、14 手島恵/15回、16 野地有子/15回、17 和住淑子/15回、23 斉藤しのぶ/15回、26 錢淑君/15回、27 井出成美/15回、28 杉田由加里/15回、31 飯野理恵/15回、42 飛世真理子/15回、43 カズノブ・ダビッド/15回) | |
| コ ン ソ ー シ ア ム 科 目 | 災害マネジメント論 | 災害時の被災地支援についてマネジメントの観点から基本知識を修得すると共に実践的な思考力を養う。毎回の授業において講義と共に討議を含め進める。(オムニバス方式/全8回) (13 宮崎美砂子/3回) 災害の特性、被災地支援にかかわる人材・組織・体制、支援の仕組み・制度、災害時におけるマネジメントの特徴について解説する。 (24 佐藤奈保/3回) 被災者に必要な支援や配慮、災害時に配慮を必要とする人々への支援、二次的健康被害の防止、避難所の運営における課題とマネジメントについて解説する。 (18 石橋みゆき/2回) 災害時における住民同士の助け合い、支援者間の連携・協働における課題とマネジメントについて解説する。 | オムニバス方式 |

| | | | |
|--|-----------------------|--|----------------|
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">コンソーシアム科目</p> | <p>災害専門職連携演習</p> | <p>災害時という特殊な状況下において、被災地の課題を的確に把握し多様な能力を有する人々と協働して問題解決を図るために必要な態度や技術、連携協働を評価する方法について論述するとともに、演習を通じてこれらを遂行する能力を養う。(講義・演習/15回)</p> <p>(15 酒井・27井出・32 白井/4回) オリエンテーションを行う(井出)。また演習に必要な知識として演習の舞台となる茨城県常総市の地形や気候の特徴から起こりやすい災害を解説する。(近藤) 水害発災時の市災害対策本部における避難所対策班および河川情報班の情報収集・分析・意思決定のシミュレーション演習(A)を行う。(酒井・井出・白井) (Day2 15 酒井・27井出・32 白井/4回, 岩崎/1回) 水害発災時の市災害対策本部における統括班における情報収集・分析・意思決定のシミュレーション演習(A)を行う(酒井・白井・井出)。また復興期の住民のコミュニティ再生プランに向けた住民支援のシミュレーション演習(B)に向け、住民の意見を集約し合意形成を行うためのワークショップと合意形成の方法について講義で解説する(岩崎)。 (Day3 岩崎・15酒井・27井出・32白井/5回) 復興期の住民のコミュニティ再生プランに向けた住民支援のシミュレーション演習(B)として、住民対象のワークショップを企画し実施する。 二つのシミュレーション演習のディブリーフィングを行う。住民の意見を集約し、それを反映させてコミュニティ再生プランと住民への説明資料を作成する。 総担当回数(15酒井郁子/15回・27井出成美/15回・32白井いづみ/15回)</p> | <p>オムニバス方式</p> |
| | <p>災害看護活動論(復旧・復興)</p> | <p>災害時に中長期的な視野で対応が必要な復旧・復興期の健康課題を明らかにし、活動を構築していく方法を学ぶ。毎回の授業において講義と共に討議を含め進める。(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(13 宮崎美砂子/3回) 災害サイクルにおける復旧・復興期の健康課題、コミュニティを単位にした持続的なアセスメント・分析に基づく組織的な支援体制づくりの方法について解説する。</p> <p>(24 佐藤奈保/3回) 疾病・障害をもつ人々が災害時に抱える問題と中長期的な支援の方法、災害エスノグラフィーについて解説する。</p> <p>(18 石橋みゆき/2回) 災害につよい人づくり・まちづくり、地域文化の創成の方法について解説する。</p> | <p>オムニバス方式</p> |

| | | | |
|------|------|---|--|
| 特別演習 | 特別演習 | <p>学生自身の博士論文研究に関連する演習を行う。</p> <p>(1 正木治恵) 先端実践看護学において、高齢社会で必要となる看護実践の理論開発に向け、高齢者ケア、慢性疾患看護、文化看護に関する研究課題の設定、研究計画の策定について演習を行う。</p> <p>(2 中村伸枝) 先端実践看護学における、小児糖尿病をもつ子どもと家族の看護、小学生から高校生のQOL、専門看護師の教育や学士の看護実習に関する研究課題の設定、研究計画の策定について演習を行う。</p> <p>(3 増島 麻里子) 先端実践看護学における、がん看護、リンパ浮腫を含む症状マネジメントとケア、アドバンスケアプランニングを含むエンドオブライフケア、医工学との連携によるICTを活用したケアに関連した研究を題材として、博士後期課程に相応した演習を行う。</p> <p>(4 岡田 忍) 先端実践看護学における、対象者の有する病態の細胞・組織レベルの理解に基づく新たなケア、実験的手法を用いたケアの評価に関連した研究を題材として演習を行う。</p> <p>(5 眞嶋 朋子) 先端実践看護学における、危機的状況にある急性期、終末期患者に関する看護、心臓手術を受ける患者の看護、心臓リハビリテーションを受ける患者の看護、終末期患者および家族への看護に関連した研究を題材として演習を行う。</p> <p>(6 諏訪さゆり) 生活創成看護学における、在宅ケア、訪問看護、高齢者ケア、認知症ケア、WHOの国際生活機能分類ICFを基盤としたケア、在宅介護ロボットシステムを活用したケアに関連した研究を題材として演習を行う。</p> <p>(7 石丸 美奈) 生活創成看護学における、予防を重視したケア、地域生活支援、地域支援システム（地域包括ケア・地域包括ケアシステム）、地域づくり、社会資源活用・創出等の地域看護学および公衆衛生看護学の学術の発展に寄与する素材を題材として演習を行う。</p> <p>(8 小宮山 政敏) 人体の構造と機能を基盤に、健康増進、疾病予防、疾病からの回復に必要なケアの開発やエビデンスの確立に関連した研究を題材として演習を行う。</p> <p>(9 森 恵美) 生活創成看護学における、妊娠分娩期のヘルスプロモーションケア、親役割移行・獲得へのケア、周産期・産後の母子・夫婦など育成期家族へのケア、女性の健康やリプロダクティブヘルスケアに関連した研究を題材として、系統的検索、批判的吟味、文献検討、エビデンスの統合の演習を行う。</p> <p>(10 北池正) 生活創成看護学において、疫学的手法を取り入れ、量的研究方法でエビデンスを産出する研究を題材として演習を行う。例えば、ヘルスプロモーションのプログラム開発、QOL 評価尺度の開発、健康診断の有効性評価などをテーマとする演習を行う。</p> <p>(11 山本利江) 文化創成看護学において、看護理論の実践への適応、看護技術の映像教材に固有な構造記述カテゴリーの解明、看護職者の専門的思考の形成を促進する教育方法に関連した研究を題材として演習を行う。</p> <p>(12 中山登志子) 文化創成看護学において、看護基礎教育・看護卒後教育・看護継続教育に関連した研究を題材として演習を行う。</p> <p>(13 宮崎美砂子) 生活創成看護学における、災害及び健康危機発生時の中長期ケア及び予防戦略の開発にかかわる公衆衛生看護・地域看護に関連した研究を題材として演習を行う。</p> | |
|------|------|---|--|

| | | | |
|------|------|---|--|
| 特別演習 | | <p>(15 酒井郁子) 生活創成看護学における、高齢者ケアEBP実装システムの開発、長期ケア施設におけるセンサリング技術の開発と実装、長期ケア施設における人材開発および専門職連携教育／実践に関連した研究を題材として演習を行う。</p> <p>(16 野地有子) 文化創成看護学における、看護管理における看護評価学に関する研究、世界をリードするインバウンド医療展開に向けた看護国際化ガイドライン、Society5.0 地域包括ケアに関連した研究を題材とした演習を行う。</p> <p>(17 和住淑子) 看護実践・看護管理実践・看護教育実践における自身の疑問を、国内外の既存の学術論文との比較照合を通して、研究疑問にまで精練させる。次いで、看護学の学的方法論に則り当該研究疑問を探究するに相応しい方法を考案し、研究計画を立案する。</p> <p>(24 佐藤奈保) 先端実践看護学における、小児看護、家族看護、疾患や障害をもつ児(者)へのケア、生涯発達の視点を基盤としたケア、子ども・家族をとりまく社会情勢・環境、災害と子ども・家族に関する研究を題材とした演習を行うとともに、研究方法論に関する演習、対象理解を深めるためのフィールド演習を行う。</p> | |
| 特別研究 | 特別研究 | <p>学術的な知見を深めることを目的として留学を行い、学生自身の博士論文の研究課題に応じた研究方法について演習を行う。</p> <p>(1 正木治恵) 先端実践看護学において、高齢社会で必要となる看護実践の理論開発に向け、高齢者ケア、慢性疾患看護、文化看護に関する研究を題材として博士論文の指導を行う。</p> <p>(2 中村伸枝) 先端実践看護学における、小児糖尿病をもつ子どもと家族の看護、小学生から高校生へのQOL、専門看護師の教育や学士の看護実習に関する研究課題の設定、研究計画の策定に関連した研究を題材として博士論文の指導を行う。</p> <p>(3 増島 麻里子) 先端実践看護学における、がん看護、リンパ浮腫を含む症状マネジメントとケア、アドバンスケアプランニングを含むエンドオブライフケア、医工学との連携によるICTを活用したケアに関連した研究を題材として学位取得基準に相応した博士論文の指導を行う。</p> <p>(4 岡田 忍) 先端実践看護学における、対象者の有する病態の細胞・組織レベルの理解に基づく新たなケア、実験的手法を用いたケアの評価に関連した研究を題材として博士論文の指導を行う。</p> <p>(6 諏訪さゆり) 生活創成看護学における、在宅ケア、訪問看護、高齢者ケア、認知症ケア、WHOの国際生活機能分類ICFを基盤としたケア、在宅介護ロボットシステムを活用したケアに関連した研究を題材として博士論文の指導を行う。</p> <p>(7 石丸 美奈) 生活創成看護学における、予防を重視したケア、地域生活支援、地域支援システム(地域包括ケア・地域包括ケアシステム)、地域づくり、社会資源活用・創出等の地域看護学および公衆衛生看護学の学術の発展に寄与する素材を題材として博士論文の指導を行う。</p> | |

| | | | |
|--|--|---|--|
| <p style="text-align: center;">特別研究</p> | | <p>(8 小宮山 政敏) 生活創成看護学において、人体の構造と機能を基盤に、健康増進、疾病予防、疾病からの回復に必要なケアの開発やエビデンスの確立に関連した研究を題材として博士論文の指導を行う。</p> <p>(9 森 恵美) 生活創成看護学における、妊娠分娩期のヘルスプロモーションケア、親役割移行・獲得へのケア、周産期・産後の母子・夫婦など育成期家族へのケア、女性の健康やリプロダクティブヘルスケアに関連した研究を題材とする。大学院生の学術的関心が高く明確化した研究課題に関して博士論文の指導を行う。</p> <p>(10 北池正) 生活創成看護学において、疫学的手法を取り入れ、量的研究方法でエビデンスを産出する研究を題材として博士論文の指導を行う。例えば、ヘルスプロモーションのプログラム開発、QOL 評価尺度の開発、健康診断の有効性評価などをテーマとする演習を行う。</p> <p>(11 山本利江) 文化創成看護学において、看護理論の実践への適応、看護技術の映像教材に固有な構造記述カテゴリーの解明、看護職者の専門的思考の形成を促進する教育方法に関連した研究を題材として博士論文の指導を行う。</p> <p>(12 中山登志子) 文化創成看護学において、看護基礎教育・看護卒後教育・看護継続教育に関連した研究を題材として博士論文の指導を行う。</p> <p>(13 宮崎美砂子) 生活創成看護学における、災害及び健康危機発生時の中長期ケア及び予防戦略の開発にかかわる公衆衛生看護・地域看護に関連した研究を題材として博士論文の指導を行う。</p> <p>(15 酒井郁子) 生活創成看護学における、高齢者ケアEBP実装システムの開発、長期ケア施設におけるセンサリング技術の開発と実装、長期ケア施設における人材開発および専門職連携教育／実践に関連した研究を題材として博士論文の指導を行う。</p> <p>(16 野地有子) 文化創成看護学における、看護管理における看護評価学に関する研究、世界をリードするインバウンド医療展開に向けた看護国際化ガイドライン、Society5.0 地域包括ケアに関連した研究を題材とした博士論文の指導を行う。</p> <p>(17 和住淑子) 文化創成看護学において、必要な倫理審査を受審した後、演習で立案した研究計画を実行する。得られた結果を、学際的・国際的見地から考察して、学的位置づけをし、看護実践・看護管理実践・看護教育実践にどのような変革や発展をもたらすのかを明確にし、一連のプロセスを博士論文としてまとめる。</p> <p>(24 佐藤奈保) 先端実践看護学における、小児看護、家族看護、疾患や障害をもつ児(者)へのケア、生涯発達の視点を基盤としたケア、子ども・家族をとりまく社会情勢・環境、災害と子ども・家族に関する研究課題を題材とした博士論文指導を行う。</p> | |
| <p style="text-align: center;">国際プログラム</p> | <p>Philosophical and Methodological Bases of Nursing Inquiry</p> | <p>The literature by Florence Nightingale related to philosophy of science and its influence on nursing theory and methodological plurality in nursing are integrated to provide a comprehensive view of the development of nursing science and knowledge. 科学哲学と、それが看護理論及び看護方法論の多元性に及ぼす影響に関するナイチンゲールによる文献を抄読して、看護学と看護知識の発展に関して総合的な視点から考察する。 (ゼミナール方式/全15回) (11 山本利江/15回)</p> | |

| | | | | |
|---------|--|---|---|---------|
| 国際プログラム | E l e c t i v e | Interdisciplinary Research Seminar | 園芸療法と臨床疫学について学び、看護領域において実践および研究の可能性を検討する。 (オムニバス方式/全15回) (8 小宮山政敏/7回) 園芸療法 (10 北池正/8回) 臨床疫学 | オムニバス方式 |
| | | Doctr al Seminar in Nursing Pathobiology | Research issues and trends in pathobiology are examined in relation to nursing science. Research and concepts related pathobiology including pathophysiology, microbiology and immunology are also discussed. (全15回 講義、学生による発表・討議) (4 岡田 忍/15回) | |
| | Doctr al Seminar in Adult Nursing | Current issues and trends in end-of-life care and critical care are discussed. Particular attention is given to advanced practice in cancer nursing. 終末期医療及びクリティカルケアの最新の課題と動向について議論する。特に、がん看護の高度な実践に着目す。 (5 眞嶋 朋子/15回、3 増島 麻里子/15回、1 正木 治恵/15回) | | |
| | Doctr al Seminar in Gerontological Nursing | Current issues and trends in gerontological nursing are discussed. Particular attention is given to advanced nursing practice for older adults with chronic and complex health problems. 老人看護学の最新の課題と動向について議論します。特に、慢性的で複雑な健康問題を抱えている高齢者を対象とした 高度な看護実践に着目します。 (5 眞嶋 朋子/15回、3 増島 麻里子/15回、1 正木 治恵/15回) | | |
| | Doctr al Seminar in Community Health Nursing | Theoretical contexts of community health nursing are discussed. Primary health care for patients, families and communities in a variety of settings across the life span is also examined. (7 石丸美奈/15回) | | |
| | Doctr al Seminar in Visiting Nursing | Research trends i n home care are discussed. Issues related to management and operation of home care services, development of nursing intervention program in providing home care, and roles and function of health and welfare professionals under the Long-Term Care Insurance System are also examined. 在宅ケアにかかわる研究の動向、訪問看護ステーションな ど在宅ケアサービス提供機関の管理・運営にかかわる課題、在宅医療の実施に伴う看護技術の開発、介護保険制度下での専門職の役割機能などを論述する。 (6 諏訪さゆり/15回) | | |
| | Doctr al Seminar in Nursing Administration | Current issues and research trnds in nursing administration globally and locally are discussed. Systematic review approach is appied. (16 野地有子/15回) | | |
| | S e m i n a r | | | |

| | | | | |
|---------|--|--|--|--|
| 国際プログラム | D o c t r a l P r a c t i c u m | Doctral Practicum in Nursing Pathobiology | Research methodologuies and nursing intervenntions related to pathobiology are analyzed, crititiqued, and practiced. Topics including theory and research on the bio-psycho -social aspects of illness, biological sensitivity to context and individual differences are also disucussed. (集中 講義・演習) (4 岡田 忍/15回) | |
| | | Doctoral Practicum in Adult & Gerontological Nursing | Scientific bases of nursing therapeutics in adult and gerontological nursing are examined from the perspective of theoretical and evidenced-based practice. 成人・老人看護における看護治療の科学的根拠について、理論と根拠に基づいた実践の観点から検討する。 (5 眞嶋 朋子/15回、3 増島 麻里子/15回、1 正木 治恵/15回) | |
| | | Doctoral Practicum in Community Health Nursing | Current issues and trends in community health nursing are examined in relation to implications for health promotion delivered at the community level. (7 石丸美奈/15回) | |
| | | Doctoral Practicum in Visiting Nursing | Current issues and trends in visiting nursing and home care are examined in relation to implications for enhancing quality of life of patients and family caregivers. 訪問看護および在宅ケアの最新の課題と動向について、利用者や家族介護者の生活の質の向上との関連を踏まえて論述する。 (6 諏訪さゆり/15回) | |
| | | Doctoral Practicum in Nursing Administration | Research methodologies and nursing project evaluation process are analyzed and critiqued from nursing administration perspectives. (16 野地有子/15回) | |
| | D i s s e r t a t i o n | Dissertation in Nursing Pathobiology | The course guides the students through the processes of writing research proposals, getting approval from an ethical review board, conducting research, writing and defending a dissertation . (集中 演習) (4 岡田 忍) | |
| | | Dissertation in Adult & Gerontological Nursing | The course guides the students through the processes of writing research proposal, getting approval from an ethical review board, conducting research, writing and defending a dissertation. この授業では、研究計画書の作成、倫理審査委員会からの承認取得、研究の遂行、博士論文の作成・発表のプロセスを通じて学生を指導する。 (5 眞嶋 朋子、3 増島 麻里子、1 正木 治恵) | |
| | | Dissertation in Community Health Nursing | The course guides the students through the processes of writing research proposal, getting approval from an ethical review board, conducting research, writing and defending dissertation. (7 石丸美奈) | |

| | | | | |
|---------|--------------|--|--|--|
| 国際プログラム | Dissertation | Dissertation in Visiting Nursing | The course guides the students through the processes of writing research proposal, getting approval from an ethical review board, conducting research, writing and defending a dissertation. n. 研究計画書の作成、倫理審査委員会からの承認取得、研究の遂行、博士論文の作成・審査のプロセスを通じて博士論文を完成させる。 (6 諏訪さゆり) | |
| | | Dissertation in Nursing Administration | The course guides the PhD students through the processes of writing research proposal, getting approval from an ethical review board, conducting research, writing and defending a dissertation. (16 野地有子) | |

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。